

実施学科課程表(17生以降)

経営システム学科

(令和5年度)

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	学科 基盤 科目	副専門科目			レベル	担当者	教員免 許 該当科 目	ク ロ ー バ ル 科 目	シラバス
						経済	地域 シス テム	社会イ ノベ ーション					
経営 基礎 論	経営学Ⅰ	2	5	前	○	○	○	○	中級	加納	商業		1
	経営学Ⅱ	2	5	後		○	○	○	中級	加納	商業		2
	基礎経営論Ⅰ	2	5	前					基礎	藤原	商業		3
	基礎経営論Ⅱ	2	5	後					基礎	藤原	商業		4
	経営史	2	5	前		○	○	○	中級	渡邊	商業		5
	企業論	2	5	前				○	中級	河野	商業		6
	企業組織法Ⅰ	2	5*	前					応用	金(康)			7
	企業組織法Ⅱ	2	5*	後					応用	金(康)			8
	経営情報論Ⅰ	2	5	前					中級	松岡	商業		9
	経営情報論Ⅱ	2	5	後					中級	松岡	商業		10
	経営組織論	2	5	前		○	○		中級	本谷	商業		11
	流通論	2	6*	前				○	中級	松隈	商業		
	マーケティング論	2	5*	前				○	応用	松隈	商業		12
	国際経営論	2	6*	前					応用	加納	商業		
	オペレーションズリサーチ	2	不開講						応用				
経営 行動 論	産業・組織心理学Ⅰ	2	5	前・集中		○	○	○	応用	非(田原)	商業		13
	産業・組織心理学Ⅱ	2	5	後・集中				○	応用	非(吉山)	商業		14
	経営戦略論	2	5	前		○	○	○	中級	仲本	商業		15
	人事システム論Ⅰ	2	5	前				○	応用	碓	商業		16
	人事システム論Ⅱ	2	5	後				○	応用	碓	商業		17
	日本型経営と持続可能な発展	2	5	後					応用	碓		○	18
	企業ファイナンス論	2	5	前					中級	鶴崎	商業		19
	交通論Ⅰ	2	6*	前					中級	大井			
	交通論Ⅱ	2	6*	後					応用	大井			
	物流概論	2	5*	前					中級	大井			20
	国際物流論	2	5*	後					応用	大井			21
	企業取引法Ⅰ	2	6*	前					応用	金(康)			
	企業取引法Ⅱ	2	6*	後					応用	金(康)			
リスクマネジメント論	2	不開講						中級	未定				

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	学科 基盤 科目	副専門科目			レベル	担当者	教員免 許 該当科 目	グ ロー バル 科目	シラバス
						経済	地域 シス テム	社会イ ノベー ション					
会 計 情 報 論	会計学Ⅰ	2	5	前	○	○	○		中級	山根	商業		22
	会計学Ⅱ	2	5	後					中級	山根	商業		23
	会社会計論Ⅰ	2	5	前					応用	中村	商業		24
	会社会計論Ⅱ	2	5	後					応用	中村	商業		25
	監査論Ⅰ	2	5	前					応用	越智	商業		26
	監査論Ⅱ	2	5	後					応用	越智	商業		27
	管理会計論Ⅰ	2	5	前		○	○		応用	大崎	商業		28
	管理会計論Ⅱ	2	5	後					応用	大崎	商業		29
	原価計算論Ⅰ	2	5	前		○	○		中級	加藤	商業		30
	原価計算論Ⅱ	2	5	後					中級	加藤	商業		31
	会計情報システム論	2	6*	後					応用	中村	商業		
	税務会計論	2	6*	後					応用	加藤			
	初級簿記	2	5	後		○	○	○	基礎	越智・山根	商業		32
	中級簿記	2	5	前					中級	非(森)	商業		33
	中級簿記補論	2	5	後					中級	越智・山根	商業		34
	実践経営分析論Ⅰ	2	不開講						応用		商業		
	実践経営分析論Ⅱ	2	5	後・集中					応用	大井	商業		35
	上級簿記	2	5*	前・集中					応用	非(望月)	商業		36
	株式会社簿記	2	5	前・集中					中級	非(角田)	商業		37

※開講年に「*」のある科目は隔年開講の予定である。

※上記「副専門科目」に○がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。

経営システム学科の学生が経済学科の副専門科目を履修したい場合は、経済学科の実施学科課程表を参照し、経営システム学科の下に○がついている科目を履修すること。

※担当者欄の(非)は非常勤講師である。

※グローバル科目欄に「○」のある科目は、国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため、全て英語による授業を行う。詳細は、教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K232M301	経営学 (Management I)					経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経	前期	木2	氏名 加納 拡和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709											
授業の概要	本授業のねらいは、経営学の主要な理論を幅広く学ぶことにある。経営学は他の社会科学（主に経済学、社会学、心理学）の知見を応用することを通じて発展してきた。それゆえ、経営学には多種多様な理論が存在する。そこで本授業では経営学の主要理論を経済学ベース、社会学ベース、心理学ベースに分類し、それぞれの理論的枠組みについて理解を深めていく。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	今日の経営学における主要な理論的枠組みを理解し、説明できるようになること																
目標2	学習した理論的枠組みを用いて、企業経営に関する現象を客観的に分析できるようになること																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	経営学の特徴																
3	経済学ベースの経営理論(1)競争戦略論の2つのアプローチ																
4	経済学ベースの経営理論(2)エージェンシー理論																
5	経済学ベースの経営理論(3)取引費用経済学																
6	経済学ベースの経営理論(4)リアル・オプション理論																
7	心理学ベースの経営理論(1)企業行動理論																
8	心理学ベースの経営理論(2)組織学習理論																
9	心理学ベースの経営理論(3)リーダーシップの理論																
10	心理学ベースの経営理論(4)モチベーションの理論																
11	社会学ベースの経営理論(1)弱い紐帯の強みの理論																
12	社会学ベースの経営理論(2)構造的空隙理論																
13	社会学ベースの経営理論(3)制度理論																
14	社会学ベースの経営理論(4)資源依存理論																
15	本授業のまとめ																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	受講者が各授業の要約、質問、感想をミニツッパーパーに記入し、次回授業で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配布資料で適宜紹介する文献を予習する(15h)。															
	事後学修	配布資料ならびに適宜紹介する文献の復習(15h)、レポート課題(20h)。															
教科書	以下の教科書を基に作成した講義レジュメを各授業で配布する。 ・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。																
参考書	参考書は授業中に適宜指定する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	ミニツッパーパー	60%															
	レポート課題(5千字程度)	40%															
注意事項	・ミニツッパーパーは単に提出すればよいというわけではない。記述内容によっては、欠席扱いとする。 ・私語等、授業の進行を妨げる行為に対して厳正に対処する。																
備考	後期に続けて「経営学」を受講することで、経営学の理解が深まる。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	ITコンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	経営学の諸学説の理解を促進するために、事例や実務の実態を適宜紹介しながら講義を進める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
K242M401	経営学 (Management II)					経営システム学科 経営システム学科	対面														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709															
授業の概要	本授業では、「経営学」で学習した理論的枠組みを用いて、近年注目されている主要な経営現象（イノベーション、ダイバーシティ等）に多角的にアプローチする。そのことを通じて、経営学の主要な理論や分析対象について理解を深めるだけでなく、現象を客観的かつ多角的に考察する力を培っていく。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	経営学の主要な理論的枠組みとその分析対象を理解し、説明できるようになること																				
目標2	学習した理論的枠組みを用いて、自ら経営現象を客観的、多角的に分析できるようになること																				
目標3																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	ガイダンス																				
2	経済学ベースの経営理論																				
3	心理学ベースの経営理論																				
4	社会学ベースの経営理論																				
5	イノベーション(1)																				
6	イノベーション(2)																				
7	ダイバーシティ(1)																				
8	ダイバーシティ(2)																				
9	グローバル経営(1)																				
10	グローバル経営(2)																				
11	コーポレート・ガバナンス(1)																				
12	コーポレート・ガバナンス(2)																				
13	アントレプレナーシップ(1)																				
14	アントレプレナーシップ(2)																				
15	本授業のまとめ																				
ラック ニテン ゲブ	A:知識の定着・確認	受講者が各授業の要約、質問、感想をミニッツペーパーに記入し、次回授業で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。										工 夫 そ の 他 の									
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	配布資料で適宜紹介する文献を予習する(15h)。																			
	事後 学修	配布資料ならびに適宜紹介する文献の復習(15h)、レポート課題(20h)。																			
教科書	教科書は指定しない。以下の参考書を基に作成した講義レジュメを各授業で作成・配布する。																				
参考書	・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。 ・その他の参考書は授業中に適宜指定する。																				
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	ミニッツペーパー	60%																			
	レポート課題(5千字程度)	40%																			
注意事項	・ミニッツペーパーは単に提出すればよいというわけではない。記述内容によっては、欠席扱いとする。 ・私語等、授業の進行を妨げる行為に対しては、厳正に対処する。																				
備考	本授業は「経営学」を予め受講しておくことで理解が深まる。																				
リンク																					
	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	ITコンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	経営学の諸学説や分析対象に関する理解を促進するために、事例や実務の実態を適宜紹介しながら講義を進める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K241M401	基礎経営論 (Basic Theory of Management)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1,2,3,4	経済	前期	金2	氏名 藤原 直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675									
授業の概要	経営学をこれから学ぶ諸君を対象に、今後、経営学関係の各論としての専門科目を履修するためのステップとして、企業経営および経営学に対する関心を抱いてもらうことを目的としている。そこで、本講義では、基礎的なケースに即しながら、経営学を学ぶ上で最も基本的と思われる概念や用語を解いてゆくこととする。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マニュファクチュアに焦点を当て、経営の基礎である、分業および協業・管理の概念を十分に理解すること。														
目標2	および、資本主義経済ならびに企業の原理的な機能を認識すること。														
目標3	そして、上述の諸点を説明することができること。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	本論・近代的企業の登場、経営とは何か。マニュファクチュアの重要性														
2	分業とは何か														
3	分業とは何か														
4	分業とは何か														
5	協業の展開														
6	協業の展開														
7	協業の展開														
8	協業の展開														
9	補論・経済学(マルクス経済学)の基本概念														
10	補論・経済学(マルクス経済学)の基本概念														
11	管理という概念														
12	管理という概念														
13	管理という概念														
14	総括														
15	総括														
ラーニング	A:知識の定着・確認	体系的な理解を心がけてください。				工夫 その 他の	体系的な講義の展開を行います。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキスト等の入念な予習が必要です(30h)。													
	事後学修	テキストおよび講義内容の整理・確認が必要です(15h)。													
教科書	アダム・スミス『国富論』第1巻、中公文庫 カール・マルクス『新版 資本論3』(第一巻 第三分冊)、新日本出版社														
参考書	藤原直樹著『『資本論』の経営理論』御茶の水書房 2018年11月														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末定期試験	100%													
注意事項	授業中は真摯な態度で受講してほしい。授業に集中していない学生には、退席を命じる場合もある。														
備考	「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」という方針で講義を進めていきます。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K241M402	基礎経営論 (Basic Theory of Management)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1,2,3,4	経済	後期	金2	氏名 藤原 直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675									
授業の概要	経営学をこれから学ぶ諸君を対象に、今後、経営学関係の各論としての専門科目を履修するためのステップとして、企業経営および経営学に対する関心を抱いてもらうことを目的としている。そこで、本講義では、企業経営に関してできるだけ具体的なケースに即しながら、基礎経営論を基礎としつつ、資本家の指揮(管理)の概念および近代から現代へのその展開を講じてゆく。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	資本家の指揮(管理)の概念と意味を十分に理解すること。														
目標2	および、近代から現代における資本家の指揮の具体的な展開を認識すること。														
目標3	そして、上述の諸点を説明することができること。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	問題の所在、『資本論』の目的と考察方法とは何か。														
2	『資本論』における独自の指揮概念の展開を理解する。真の問題の所在とは。														
3	『資本論』における独自の指揮概念の展開を理解する。真の問題の所在とは。														
4	資本家の指揮(Leitung)の具体的な内容を理解するために、分類のための視点ならびに三つの分類。														
5	マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c														
6	マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c														
7	マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c														
8	マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c														
9	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。														
10	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。														
11	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。														
12	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。														
13	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。														
14	資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その2.『資本論』に基づく指揮論の現代的意義。														
15	補論.「技術学」(Technologie)とは何か、技術学の現在														
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	体系的な理解を心がけてください。					工 夫 そ の 他 の	体系的な講義の展開を行います。							
準備 学修	テキスト等の入念な予習が必要です(30h)。														
事後 学修	テキストおよび講義内容の整理・確認が必要です(15h)。														
教科書	カール・マルクス『新版 資本論3』(第一巻 第三分冊)、新日本出版社														
参考書	藤原直樹著『『資本論』の経営理論』御茶の水書房 2018年11月														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	期末定期試験	100%													
注意事項	基礎経営論を受講した学生の参加が望ましい。また、同を受講した事を前提として本講義を進行してゆく。授業中は真摯な態度で受講してほしい。授業に集中していない学生には、退室を命じる場合もある。														
備考	「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」という方針で講義を進めてゆきます。														
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
K242M402		経営史(Business History)					経営システム学科 経営システム学科	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経済	前期	火1	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702									
授業の概要	本授業では、一国の社会経済や産業の発展過程をふまえたうえで、個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と提供、それによる利潤の追求などがいかになされてきたのかを、過去の企業家や経営者、企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に解明していきます。そこで、まず、経営史という学問についてアメリカで生み出された経緯や問題意識などとともに、欧米経営史の概要を把握します。次に、日本の社会経済の発展と日本経営史の概要をふまえたうえで、年代ごとに特徴ある企業や経営システムについて、事例研究も交えながら理解します。最終的には、それらをもとに日本企業の現況とこれからのあり方などについても考えていきます。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経営史という学問を知り、それを学ぶ理由を理解する。														
目標2	企業や経営システムの成り立ちや歴史を知り、多くの知識を修得する。														
目標3	欧米諸国と比べることで、日本の企業や経営システムの独自性や経済発展へのインパクトを理解する。														
目標4	経営史を学ぶことで、企業や経営システムの現状とこれからのあり方について考えられるようになる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 本授業のねらいと内容および進め方、経営史という学問															
2 欧米経営史の概要															
3 日本経済の発展と日本経営史の概要															
4 江戸時代から第1次世界大戦前までの経営															
5 両大戦間期の経営(1):財閥の多角化と組織、重化学工業化と新興財閥															
6 両大戦間期の経営(2):技術経営の誕生、「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生															
7 両大戦間期の経営(3):都市型ビジネスの成立															
8 第2次世界大戦後(1):経済民主化と企業変革															
9 第2次世界大戦後(2):大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展															
10 第2次世界大戦後(3):企業集団とメインバンク															
11 第2次世界大戦後(4):日本の生産システムの形成															
12 第2次世界大戦後(5):流通のイノベーション															
13 第2次世界大戦後(6):変貌する総合商社															
14 第2次世界大戦後(7):日本の経営とその変容															
15 講義のまとめ、日本企業の現況と今後のあり方について															
ラーニング	A:知識の定着・確認	事例研究,個人ワークなど				工夫	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。								
ア	B:意見の表現・交換					夫									
ニ	C:応用志向					の									
テ	D:知識の活用・創造					他									
ン	準備	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間)													
グ	学修	興味ある企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略などについての調査(15時間)													
プ	事後	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)													
	学修														
教	教科書	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎、2014年。													
科	参考書	・佐々木聡編著『グラフィック経営史』新世社、2022年。 ・鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』(有斐閣アルマ)有斐閣、2004年。 ・安部悦生『経営史 第2版』(日経文庫 経営学入門シリーズ)日本経済新聞社、2010年。													
績	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
評	期末試験結果	70%													
価	授業参加姿勢(課題対応など)	30%													
の															
方															
法															
及															
び															
評															
価															
割	上記のことをもとに総合的に評価します。														
合															
注	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。														
意															
事															
項															
備															
考															
リ															
ン															
ク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M403	企業論(Company and Business)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経済	前期	火3	氏名 河野 憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679						
授業の概要	私たちの生活に深く関わっている企業を理解することは現代社会を生きる上で大切です。授業では担当教員の社会人経験に基づく事例を紹介しながら、企業について、その成立から現代の組織形態、経営の管理体系の基本を解説します。また企業と事業、営利組織と非営利団体といった対比から企業を考察することで、現代社会がかかえる様々な課題を理解して、問題解決にむけた取り組みや方向性についても論じます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	企業の成り立ちや組織形態、機能について基本的な知識が身についている											
目標2	現代社会における企業の役割や社会への影響、また企業が抱える課題について理解し、説明できる。											
目標3	課題解決の一方法としてビジネスプランを策定して説明できる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション 企業の現状と課題											
2	企業組織の諸形態											
3	企業の発生と発達											
4	企業と事業											
5	ケーススタディ1(町家旅館)											
6	企業における金融市場(ファイナンス)											
7	企業における労働市場(人的資源管理)											
8	企業における製品・サービス1(経営戦略)											
9	企業における製品・サービス2(マーケティング)											
10	ケーススタディ2(チェック・トランケーション)											
11	企業倫理											
12	コーポレート・ガバナンス											
13	スモールビジネス											
14	非営利組織への展開～病院経営、NPO											
15	プレゼンと総括											
ラック ニ ン イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習や個人ワーク、発表の場などを設けて、学んだ知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。				工夫 その 他の	毎回の授業でコメントシートの作成、提出を求めます。 コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学ぶ機会を設けます。					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間)										
	事後 学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)										
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使ってすすめます。											
参考書	佐護善編著(1995)『経営学要論』泉文堂 斎藤・薫谷・相原編(2004)『経営学のフロンティア』学文社 加護野・吉村編(2012)『1からの経営学 第2版』中央経済社											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	平常点	20%										
	レポート	40%										
	期末試験	40%										
注意事項	授業中に意見を求めることがあります。 予習・復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。											
備考												
リンク	個人ホームページ URL https://kenjikouno.jimdo.com/											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな動向に金融サービスの観点を加えて、企業の本質を多面的に解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M401	企業組織法 (Law of Enterprise Organization I)					経営システム学科 経営システム学科									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経	前期	火1	氏名 金 康浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717									
授業の概要	会社法上の会社の種類および会社法の目的について解説した後に、株主および取締役をめぐる規制に重点をおいて解説します。講義では会社法が適用された実際の判例、および、各制度の趣旨を理解するのに必要な重要な学説についても解説します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	会社法が対象としている会社を挙げることができる。														
目標2	講義で扱った制度の概要および趣旨を、条文を挙げて説明することができる。														
目標3	講義で扱った制度と関連する判例の概要を説明することができる。														
目標4	学説上解釈が分かれている点について、解釈の違いが生じている理由および各学説の内容を説明することができる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	会社法総論														
2	会社の設立														
3	株式と株主														
4	株式の譲渡および株主の権利行使の方法														
5	特殊な株式保有の形態および投資単位の調整														
6	株式会社の機関および株主総会														
7	株主総会決議を争う訴え														
8	取締役および取締役会														
9	取締役と会社との関係(1)														
10	取締役と会社との関係(2)														
11	取締役の責任(1)														
12	取締役の責任(2)														
13	株主代表訴訟および差止め														
14	監査役、監査役会および会計監査人														
15	指名委員会等設置会社および監査等委員会設置会社														
ラーニング	A:知識の定着・確認	会社法が適用される場面を具体的にイメージすることができるように、実際の判例にも言及して制度の内容を説明します。					工	その							
	B:意見の表現・交換						夫	他							
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	該当箇所の教科書を読み、授業の内容の概要をつかんでください(20h)。													
	事後	六法を確認しながら教科書を読んで、授業の内容に対する理解を深めてください(30h)。													
教科書	高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)														
参考書	岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	80%													
	平常点	20%													
注意事項	講義中に条文を参照するので、小型の六法を必ず持参してください。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K243M402	企業組織法 (Law of Enterprise Organization II)					経営システム学科 経営システム学科														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経	後期	火1	氏名 金 康浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717														
授業の概要	会社法が規律している制度のうち、計算、資金調達および組織再編を中心として解説します。 講義では、会社法が適用された実際の判例、および、各制度の趣旨を理解するのに必要な重要な学説についても解説します。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	講義で扱った制度の概要および趣旨を、条文を挙げて説明することができる。																			
目標2	講義で扱った制度と関連する判例の概要を説明することができる。																			
目標3	学説上解釈が分かれている点について、解釈の違いが生じている理由および各学説の内容を説明することができる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	会計および開示																			
2	剰余金の配当および資本制度(1)																			
3	剰余金の配当および資本制度(2)																			
4	募集株式の発行等(1)																			
5	募集株式の発行等(2)																			
6	新株予約権および社債																			
7	企業買収																			
8	組織再編(1)																			
9	組織再編(2)																			
10	組織再編(3)																			
11	組織再編(4)																			
12	事業の譲渡等																			
13	敵対的買収および防衛策																			
14	会社の解散、清算および倒産																			
15	持分会社および国際会社法																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	会社法が適用される場面を具体的にイメージすることができるように、実際の判例に言及して制度の内容を説明します。										工夫	その他							
ニテ	B:意見の表現・交換																			
ンイ	C:応用志向																			
グ	D:知識の活用・創造																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	該当箇所の教科書を読み、授業の内容の概要をつかんでください(20h)。																		
	事後学修	六法を確認しながら教科書を読んで、授業の内容に対する理解を深めてください(30h)。																		
教科書	高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)																			
参考書	岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末試験	80%																		
	平常点	20%																		
注意事項	講義中に条文を参照するので、小型の六法を必ず持参してください。																			
備考	講義は企業組織法を受講していることを前提に進みます。																			
リンク	URL																			

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K242M404	経営情報論 (Analysis of Business Model using ICT I)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経	前期	火2	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668									
授業の概要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー(循環型経済)をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。														
目標2	企業事例の分析を通して、事業プロセスのモデル化や顧客価値を生み出す仕組みを論理的に理解し、説明できる。														
目標3	持続可能な発展のための環境負荷軽減につながるデジタルトランスフォーメーションを理解する														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	講義概要とイントロダクション														
2	世界と日本におけるICT市場の動向														
3	持続可能なデジタルトランスフォーメーションとは														
4	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 銀行編 FinTech														
5	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 保険会社編 InsureTech														
6	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション クラウドファウンディング														
7	中間試験														
8	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション オムニチャネル化 リアル店舗とネット事業の融合														
9	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション デザインマーケティング														
10	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション メタパース活用でなにが変わるか														
11	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション 製造業のサービス化														
12	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション モノの所有から利用で変わるビジネスモデル														
13	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション サーキュラーエコノミー型モデル														
14	ブロックチェーン技術とNFT もしくは テレワークが変わるオフィス														
15	まとめ														
ラ ア ク ニ テ イ グ	A:知識の定着・確認	B:意見の表現・交換	C:応用志向	D:知識の活用・創造	ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するICTを活用したビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。	工 夫 そ の 他 の	最新の事例を紹介しますので、講義では理解しやすいように図表を使用したり、また事例紹介のためのストーリー映像を時々使用します。								
時間外学修の内容と時間の目安	準備 経済や企業経営に関するニュースに日頃から目を通しておきましょう。 学修 配布した資料や参考URLにアクセスして目を通しておく(15h) 事後 印刷して配布した資料やMoodleにアップされた資料、講義中にとったノートで毎回復習をして学修 授業中に提示した課題を解く(15h)、講義中の小テストの誤答箇所について、正解を確認し、ノートに整理する(15h)														
教科書	講義資料はMoodle にアップロードするものと印刷して配布するものがあります。														
参考書	参考資料や記事はMoodleにアップロードします。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	講義中のミニレポート	10%													
	中間試験	40%													
	最終試験	50%													
	講義の進捗度合いに応じて中間試験をレポートに変える場合もあります。最終試験のできがよくなかったと思う人は追加課題のレポートを提出してください。														
注意事項	遅刻や欠席を極力しないようにして、周りの学生の迷惑にならないようにしてください。第一回目は10分程度オリエンテーションを行い、講義にはいります。														
備考	第1回目の講義に必ず出席してください。2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。教室講義の時でもオンライン講義の時でも開始時間に遅れないようにしてください。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K242M405	経営情報論 (Analysis of Business Model using ICT II)					経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経	後期	火3	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668											
授業の概要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー(循環型経済)をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	専門用語の意味や原理を理解・説明できる。																
目標2	ICTを活用した事業の原理や顧客提供価値について理解し、自分でも説明ができる																
目標3	持続可能な環境負荷軽減に寄与する仕組みへの理解を深める																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	講義概要とイントロダクション																
2	ショールーミング1 ネット企業のリアル店舗展開																
3	ショールーミング2 売らない店舗とは?)																
4	ゲストスピーカーの日																
5	SNSを活用した広告とマーケティング 1																
6	SNSを活用した広告とマーケティング 2																
7	SNSを活用したブランド構築 デザイナーダイレクトマーケティング																
8	中間試験																
9	シェアリングサービス1																
10	シェアリングサービス2																
11	サブスクリプションサービス1																
12	サブスクリプションサービス2																
13	働き方改革とICT 利活用 新たに求められる働き方とオフィス機能																
14	地域創成とICT利活用 スマートシティとは																
15	まとめ																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。	工 夫 そ の 他 の	講義では理解しやすいように図表を使いまた事例紹介のためのストリーミング映像を使用します。													
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 配布した資料に講義の前に目を通しておく(15h) 事後学修 講義の資料を見直して復習し、授業中に提示した課題を解く(15h) 学修 小テストの誤答箇所について、正解を確認し、ノートに整理する(15h)																
教科書	必要な資料は適宜印刷して配布したりMoodleにuploadします。																
参考書	講義中に適宜指示します。事例紹介動画を講義中に適宜指示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	中間試験	30%															
	最終試験	60%															
	講義中のミニッツペーパー	10%															
注意事項	事例は、その時々において話題性のあるものを取り扱い、新聞、雑誌から印刷して配付します。ストリーミング映像を使用することもあります。																
備考	2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。遅刻や欠席をしないようにしましょう。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M406		経営組織論(Organization Management)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経	前期	金2	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707										
授業の概要	経営組織論についての専門的知識や理論のうち、基礎となる部分の習得がねらいです。私たちに大きな影響を与えている企業組織のあり方について学び、経済社会への理解を深めるためです。企業組織とは何か、組織がなぜ必要とされるのか、どのようにして判断し行動しているのか、組織と人の関わりはどのようなものか、などについて考える手立てとなる知識と理論を学びます。そして、最終的にはそれらを活用して企業組織を分析できるようになることをめざします。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経営組織論についての専門的知識や理論を身につける。																
目標2 企業組織のしくみを理解することができる。																
目標3 企業を経営組織の視点から捉えることができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス、学修の対象と範囲																
2 組織について学ぶこと																
3 組織の概念																
4 組織に関わる理論とその変遷																
5 組織の均衡																
6 組織の構造とデザイン																
7 合理性と官僚制																
8 社会化と組織文化																
9 前半の復習																
10 意思決定																
11 組織と環境																
12 組織における個人・集団																
13 リーダーとフォロワー																
14 コンフリクト																
15 組織と社会の課題																
ラーニング	A:知識の定着・確認	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を課します。				工夫	その他の									
ラーニング	B:意見の表現・交換															
ラーニング	C:応用志向															
ラーニング	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備	新聞を読み、企業や社会の動きを知るようにしましょう。														
	学修	moodleにアクセスして授業前の課題に取り組みましょう。初回に提示するテキスト等も参考にしてください。(15h)														
	事後	授業内容を再度確認し、整理しましょう。(15h)														
	学修	moodleにアクセスして復習用の課題に取り組みましょう。(15h)														
教科書	講義中に常に用いるテキストはありません。授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。															
参考書	各回の講義中に関連する文献を提示します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題の提出	50%														
	期末試験	50%														
注意事項	・後期に開講予定の組織革新論を受講する前にぜひこちらを先に受講してください。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。															
備考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。															
リンク																
	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式																		
K243M403	マーケティング論(Marketing)					経営システム学科 経営システム学科																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択	2	3,4	経済	前期	月3	氏名 松隈 久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680																			
授業の概要	現代企業のマーケティングを理解すること。特に、消費者行動を理解し、企業の製品開発、価格設定を検討する。																								
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 マーケティングの4Pを説明できること。																									
目標2 消費者行動、新製品開発、価格設定を説明できること。																									
目標3																									
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 マーケティング概念																									
2 消費者の行動																									
3 購買意思決定の影響要因																									
4 マーケティング戦略の策定(1)																									
5 マーケティング戦略の策定(2)																									
6 製品政策(1)																									
7 製品政策(2)																									
8 価格政策																									
9 プロモーション政策																									
10 流通政策																									
11 マーケティング・ミックスの統合																									
12 戦略的マーケティング																									
13 市場資源のマーケティング																									
14 事例研究																									
15 まとめ																									
ラーニング	A:知識の定着・確認	テーマに関連する企業のマーケティングを示すので、比較研究してほしい。それにより具体的なマーケティング行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。										工夫	その他の												
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間																							
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。20時間																							
教科書	初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。毎回、テキストからクイズを出す予定です。																								
参考書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	レポート(クイズを含む)	50%																							
	試験	50%																							
新型コロナ対策のために、遠隔授業にすることがあります。その場合は、初回の授業時にお知らせします。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。																									
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。毎回、テキストからクイズを出す予定です。出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。																								
備考	応用科目ゆえ、2年生でも履修できますが、3年生以上の選択が適切です。新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。																								
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M406		産業・組織心理学 (Industrial and Organizational Psychology)					経営システム学科 経営システム学科	オンライン(オンデマンド型)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3,4	経	前期集中	他	氏名 田原 直美 E-mail naomi@seinan-gu.ac.jp 内線												
授業の概要	本講義では、職場や組織における人間行動について、個人や集団の心理的特性を理解することを目標とする。産業・組織心理学の基本的なトピックに加え、現代の組織状況において特に注目されているトピック(心理的安全性、ワークライフバランス、キャリア発達など)についてもとりあげる。来るべきワーク・ライフについて想像を膨らませながら、講義で扱った理論や考え方を十分に理解することはもちろん、学習したことを自身の体験や社会の出来事を捉える際に活用できるようになることを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	職場や組織における人間行動を、個人レベルと集団(組織)レベルから心理学的視点でとらえられるようになる。																	
目標2	職場や組織における個人の行動や心理について基礎的な理論を説明できるようになる。																	
目標3	職場や組織における、集団やチームの特性について基礎的な理論を説明できるようになる。																	
目標4	組織における安全とエラーについて、基礎的な理論を説明できるようになる																	
目標5	職場や組織における人間行動について、具体的な現象を説明する際に、産業組織心理学の知識を応用することができるようになる																	
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	産業組織心理学の歴史とテーマ																	
2	ワーク・モチベーション(1)モチベーションの意味、内容理論																	
3	ワーク・モチベーション(2)過程理論、職務満足感、組織コミットメント																	
4	キャリア発達・ミニレポート																	
5	人的資源管理																	
6	職場におけるストレスとメンタルヘルス																	
7	リーダーシップ(1) リーダーシップの基本的な理論																	
8	リーダーシップ(2) 近年注目されているリーダーシップ論・ミニレポート																	
9	職場集団のダイナミクス																	
10	チーム・コミュニケーション																	
11	職場のコミュニケーションと人間関係(1) 集団の意思決定																	
12	職場のコミュニケーションと人間関係(2) 職場における葛藤・ミニレポート																	
13	組織の安全とヒューマンエラー(1) ヒューマンエラー																	
14	組織の安全とヒューマンエラー(2) チームエラーと組織事故																	
15	まとめ・ミニレポート																	
ラ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー	A:知識の定着・確認	授業毎にリアクションペーパーを提出し、フィードバックを行う。					工 夫 そ の 他 の	講義で使用する資料等はすべて Moodle に公開し自主学習を促進する。										
ニ テ ン シ ー	B:意見の表現・交換	簡単な実験やDVD視聴などを行い、それについてグループでのディスカッションを行う。																
グ ル ー プ	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	あらかじめ資料と教科書の該当箇所を示すので、よく読み予習しておく(18h)。																
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した心理学的知識を実際の生活場面でとらえる(14h)。																
教科書	柳澤さおり・田原直美(編著)『はじめて学ぶ産業・組織心理学』白桃書房																	
参考書	講義中に適宜紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	リアクションペーパー	20%																
	講義中のミニレポート	60%																
	最終レポート	20%																
	リアクションペーパー、ミニレポート、及び最終レポートそれぞれについて、60%以上の得点であることを単位認定の条件とする。																	
注意事項																		
備考																		
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
K243M407		産業・組織心理学 (Industrial and Organizational Psychology)					経営システム学科 経営システム学科					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経済	後期集中	他	氏名 吉山 尚裕 (非常勤講師) E-mail yoshiya@oita-pjc.ac.jp 内線						
授業の概要	この授業の目的は、組織活動に役立つような心理学的知識を学び、仕事を進める実践力を養うことです。皆さんは、将来、企業や官公庁、各種団体、NPOなどの運営に参加することでしょう。「産業・組織心理学」では、働く人間や職場の人間関係に関する心理学的知識の確認しながら、そうした知識をマネジメント(経営管理)に活用することに重点を置きます。具体的には、モチベーション、グループ・ダイナミックス、リーダーシップ、意思決定などを取りあげ、実践と関連付けながら理解を深めます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	ワークモチベーションやジョブデザインに関する主要理論を説明できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	職場の人間関係や職場集団の特質、発生しやすい問題について説明できる。											
目標3	リーダーシップを効果的に発揮するためのポイントや留意点を説明できる。											
目標4	個人や集団の意思決定で陥りがちな心理学的な落とし穴を説明できる。											
目標5	コーチングの進め方を学び、ロールプレイ(役割演技)で実践できる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	産業・組織心理学の歴史と領域											
2	組織とは何か? : 事例研究1											
3	科学的管理法から人間関係論、そして行動科学へ											
4	ワークモチベーションの主要理論											
5	ジョブデザインとキャリア開発											
6	グループ・ダイナミックス											
7	集団の規範と凝集性、チームワーク											
8	組織におけるコミュニケーション: 事例研究2											
9	職場の健康診断(モラルとリーダーシップの診断)											
10	リーダーシップの理論とその活用											
11	リーダーシップとコーチング											
12	組織の意思決定											
13	個人の意思決定の落とし穴											
14	集団の意思決定の落とし穴											
15	授業全体のまとめ											
ラック	A:知識の定着・確認	・「事例研究」(2回)では、職場で起こる問題の原因と対応策を考えてもらい、問題解決の実践力を養います。					工 夫 そ の 他 の	・Moodleにパワーポイントの配布資料を掲載します。				
ニ	B:意見の表現・交換	・「コーチング」では、ロールプレイ(役割演技)による後輩指導の実習も行う予定です。ただし、授業の進度によっては解説のみとします。										
ン	C:応用志向											
グ	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	パワーポイントの配布資料(pdf)や参考書を使って予習する(15h)。										
	事後学修	専門用語や理論(考え方)を確認するとともに、組織の活動や運営にどのように活用できるかを考察してください(15h)。										
教科書	使用しません。パワーポイントの配布資料(pdf)や紙資料(シート)を使います。											
参考書	田中堅一郎(編)『産業・組織心理学エッセンシャルズ』(第4版) ナカニシヤ出版 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著)『産業・組織心理学』 有斐閣アルマ											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	筆記試験(穴埋め問題・用語説明・論述問題)・筆記試験では、資料等の持ち込み不可。	60%										
	授業への取組(毎日1回は提出してもらおうミニレポートの評価を含む)	40%										
注意事項	・講義形式の授業ですが、質問しながら進めるので応答してください。受講生の人数によっては、座席指定を行います。 ・前期の「産業・組織心理学」を履修していない学生も、「」の履修は可能です。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	企業における各種調査の実施・分析・報告。企業・官公庁のリーダーシップ研修の講師も多数経験している。
実務経験を いかした教 育内容	職場の健康診断（モラルとリーダーシップの分析）、コーチング実習

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K242M408		経営戦略論(Management Strategies)					経営システム学科 経営システム学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	金3	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714													
授業の概要	企業を取り巻く環境の変化が激しい今日、企業が進むべき基本的方向を示す経営戦略の重要性はますます高まっています。本講義では、経営戦略の概念、経営戦略の策定のあり方、経営戦略のとらえ方、を経営戦略論で提示されている代表的なフレームワークを学ぶことで理解することをねらいとします。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業の経営戦略に関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。																			
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ガイダンス																			
2 経営戦略の概念																			
3 経営戦略論の展開																			
4 ドメインの定義																			
5 ドメインの定義																			
6 ドメインの再定義																			
7 経営資源																			
8 経営資源																			
9 PPM																			
10 PPM																			
11 ポジショニング戦略論																			
12 ポジショニング戦略論																			
13 資源ベース戦略論																			
14 資源ベース戦略論																			
15 プロセス型戦略論																			
ラック ノート ディ ゲブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					工 夫 そ の 他 の												
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h、計15h)。 講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h、計30h)。																	
教科書	大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。																		
参考書	周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学1』実教出版。他にも適宜紹介します。																		
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10							
	期末試験	90%																	
	小レポート	10%																	
講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。																			
注意事項	・教科書に書いていないことも講義します。 ・レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。																		
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K243M408		人事システム論 (Personnel Management I)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3,4	経済	前期	金4	氏名 碓 邦生 E-mail kunioik2@oita-u.ac.jp 内線 7711										
授業概要	本講義では、他社とともに働く、協業するために必要なマネジメントの知識及びスキルを実践と組み合わせることを目的とします。現代のビジネス環境では、プロジェクト単位での仕事が増え、個人の優れた能力や業績よりも、チームや集団単位での業績やチームへの貢献が重視されています。反対に、個人の働きで完結するような、工場のライン工やルート営業、販売員などの仕事に対する組織内での重要度が低下しています。この傾向は、今後、更に強まると予測されています。個人の働きだけで完結する仕事は、AIやロボットなどのテクノロジーで代替しやすく、必ずしも人がやる必要がないためです。そのため、本講義では、スマホアプリ「Minecraft」を活用して、プロジェクト単位でのグループ課題をクリアし、他人と協力して仕事をしていくソフトスキルの取得を目指します。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	実践的なワークと理論の学習を通して、協業に必要なコミュニケーションやプロジェクト・マネジメントのスキルを学ぶ															
目標2	チームや集団における人のマネジメントについて、基礎的な理論や専門用語の意味を理解・説明できる															
目標3	プロジェクト・マネジメントの仕組みや変遷を理解する															
目標4	人のマネジメントにかかわる諸問題に対して、どのような人材マネジメントの理論が役に立つのか、理解する															
目標5	他者との協業について、人的資源管理の理論と共に理解することで、問題解決のメカニズムを理解する															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	イントロダクションとグループ分け															
2	ステージ1：プロジェクトのゴールを決める (Chapter 1)															
3	ステージ1：ゴールを達成するためのアイデア探索 (Chapter 2)															
4	ステージ2：計画立案と仕事の割り振り (Chapter 7)															
5	ステージ3：進捗管理とコントロールの利かせ方 (Chapter 13)															
6	ステージ3：プロジェクト内でのコミュニケーション (Chapter 14)															
7	中間発表：エクササイズ1															
8	エクササイズ1のリフレクション 及び チームビルディング															
9	アドバンスド1：最終発表に向けたゴール設定 と 設定されたゴールの意義を考える (Chapter 1)															
10	アドバンスド1：ゴールを達成するためのアイデア探索 (Chapter 2)															
11	アドバンスド2：役割分担とチームビルディング (Chapter 8)															
12	アドバンスド3：最高のパフォーマンスを維持させる (Chapter 15)															
13	アドバンスド4：新たなツールを使うことの重要性 (Chapter 17)															
14	アドバンスド4：プロジェクトのコストをコントロールする (Chapter 18)															
15	最終発表：エクササイズ2															
ラック	A:知識の定着・確認	・ゲームソフト「Minecraft」(スマホ・PC・コンシューマー機どれも可)を活用した、プロジェクト・マネジメントの実践学習				工	そ	他の								
タイム	B:意見の表現・交換															
ニ	C:応用志向															
ン	D:知識の活用・創造															
グ																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回のプレゼン準備 (30時間)														
	事後学修	フィードバックへの対応 (15時間)														
教科書	基本的には、講義中に配布する資料に沿って実施します。講義で、教科書の代わりに『Minecraft』を購入してもらいます。使用するプラットフォームによって値段は変わりますが、おおむね1000円～4000円程度です。															
参考書	・Portny, S. E. (2017). Project management for dummies. John Wiley & Sons. 大学院への進学を志す場合は、下記テキストを読み込むようにしてください。 ・上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2010年。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	最終発表	15%														
	中間発表	10%														
	各回での課題提出 (各回5点)	55%														
	期末レポート	20%														
		中間と最終発表の質に応じて、割合以上の加点があります。														
注意事項	・私語や講義途中での入退は、他の出席者の迷惑になるので慎むようにしてください。警告されても改善されない場合は、欠席扱いとします。 ・講義開始から15分経過した後は、原則として、遅刻者の入室は認めません。															
備考	・ノートPC (もしくはタブレットPC) を持っている場合には、必ず持参するようにしてください。 ・グループワーク主体の講義となります。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	グローバル税理士法人における人事業務経験および民間シンクタンクにおける人事領域の研究員
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
実務経験を いかした教 育内容	企業人事との実務経験を活かした事例紹介

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M409		人事システム論 (Personnel Management II)					経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3,4	経済	後期	金4	氏名 碓 邦生 E-mail kunioik2@oita-u.ac.jp 内線 7711												
授業の概要	本講義では、『組織で生き活きと働くにはどうすべきか?』をテーマとして、組織における人材マネジメントの理論について学びます。異なる価値観を持ったメンバーと協業する上で、重要な思考や行動など、組織で働くときに行動様式や仕事に対する考え方が仕事の成果に影響を及ぼします。どのような行動様式や仕事に対する考え方が、人材マネジメントの領域で研究がなされてきたのかについて、体系的に学習します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 組織行動について、基礎的な理論や専門用語の意味を理解・説明できる。																		
目標2 組織行動の基礎的な理論を理解することで、昨今の企業組織における、人のマネジメントに関する問題を理解する。																		
目標3 組織行動にかかわる諸問題に対して、どのような人事システムの機能によって解決してきたのか、理解する。																		
目標4 上記1~3を学習することで、組織行動論について、リアリティのある知識を身に着ける。																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 イントロダクション																		
2 モチベーション論																		
3 組織コミットメント																		
4 キャリア・マネジメント																		
5 組織市民行動																		
6 組織ストレス																		
7 チーム・マネジメント																		
8 戦略人事の4つの役割																		
9 リーダーシップI																		
10 リーダーシップII																		
11 組織文化																		
12 組織変革																		
13 組織的公正																		
14 ダイバーシティ・マネジメント																		
15 組織におけるフィードバック																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	・講義の開始時に、事前に読み込んできたテキストの内容について、重要だと思ったポイントや、なぜ重要だともったのかについて、グループやペアによる話し合いや意見交換をしてもらいます。					工夫 その他	講義内容に対して自分なりの問題意識を持ってもらうために、グループでのプレゼンテーション(5分程度)を各回冒頭で行ってもらいます。										
	B:意見の表現・交換	・授業の最後に、振り返りや質問などのコメントを記入してもらいま																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	講義内容に関連した動画を視聴し、レポートを作成する(30時間)																
	事後	授業内容を復習する(15時間)																
教科書	講義資料をオンライン上にアップするため、講義前にダウンロードしてください。印刷するかどうかは自己判断に任せます。																	
参考書	開本 浩矢(編),(2014),『入門 組織行動論』,中央経済社 金井壽宏 & 高橋潔,(2004),『組織行動の考え方』,東洋経済新報社 ダグラス・ストーン,シラ・ヒーン,花塚恵(訳),(2016)『ハーバードあなたを成長させるフィードバックの授業』,東洋経済新報社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	学期末レポート	40%																
	事前課題の提出	60%																
注意事項	・私語や講義途中での入退出は、他の出席者の迷惑になるので慎むようにしてください。警告されても改善されない場合は、欠席扱いとします。 ・講義開始から15分経過した後は、原則として、遅刻者の入室は認めません。																	
備考	・テクノロジーを活用しようという姿勢を歓迎するため、ノートPCやタブレットPC等の使用を許可します。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	グローバル税理士法人における人事業務経験および民間シンクタンクにおける人事領域の研究者
実務経験を いかした教 育内容	企業人事との実務経験を活かした事例紹介

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 日本型経営と持続可能な発展(Japanese Management and Sustainable Development)					区分・【新主題】/(分野) 経営システム学科 経営システム学科		授業形式 対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択		1・2・3・4	教・医・理工 ・福	後期	金3	氏名 碓 邦生(経) E-mail 内線													
授業の概要	The purpose of this course is to learn basic knowledges on traditional and cultural uniqueness of Japanese corporations.																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Understanding historical and social background of Japanese corporations																		
目標2	Learning typical working styles and careers of Japanese employees																		
目標3	Appreciating current trends of globalizing Japanese business																		
目標4	Improving the strategic thinking and planning skills through making presentations																		
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	Introduction																		
2	Positioning Japan for the twenty-first century																		
3	The challenge to Japan's economy in an evolving world																		
4	Challenges facing Japan's science and technology																		
5	Cool Japan and the struggle with globalization																		
6	Entrepreneurship in Japan																		
7	Group exercise: Make groups and choose industrial sectors																		
8	Group exercise: International comparisons of countermeasures against social crisis																		
9	Group Presentation																		
10	Disparity Problem between Tokyo and Local cities																		
11	Entrepreneurship in Japanese local cities																		
12	Economics in Kyushu																		
13	Economics in Oita																		
14	Tourism sector in Oita																		
15	Necessarily of social entrepreneurship in Oita																		
ラ ア ク ニ ン イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	This course basically follows a textbook, but all students have to deliver a presentation about a case of Japanese overseas business such as Toyota's global strategic automobiles and Rakuten's global hiring.					工 夫 そ の 他 の	The final presentation is the collaboration with a local company at Oita. Students make a global marketing strategy for expanding their business.											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	Read a reacquired chapter at a textbook (Total: 20 hours)																	
	事後 学修	Research a business case related to the previous lecture (Total: 15 hours)																	
教科書	Mouer, Ross. (Eds.). (2015). Globalizing Japan: Striving to Engage the World, Australia: Transpacific press.																		
参考書	Abegglen, J. C., & Stalk, G. (1985). Kaisha Japanese Corporation. Basic Books. Jacoby, S. M. (2007). The Embedded Corporation: Corporate Governance and Employment Relations in Japan and the United States. Princeton University Press.																		
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10							
	Participate to discussion	20%																	
	Short presentation	20%																	
	Final Report	60%																	
注意事項	All students have to attend over 70 % of this course.																		
備考																			
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	Working experience at both Japanese and Western corporations

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M409		企業ファイナンス論(Corporate Finance)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経済	前期	月3	氏名 鶴崎 清貴 (非常勤講師) E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線										
授業「企業ファイナンス論」では、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、その基礎とは「評価」を意味します。「評価」とは、経営者あるプロジェクトを実行するののか、買収するののかを、いかに決定するか、ということです。この決定を行うために、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な3つの問題を考察します。資本予算(Capital Budgeting)とは、あるプロジェクトを実行する際、そのプロジェクトがどのような価値があるののかを検討することです。投資(Investment)とは、投資家がどのようなプロジェクトに投資するののか。また、いかに投資ポートフォリオを選択するかということです。資本構成(Capital Structure)とは、経営者がプロジェクトに対する資金調達をいかにに行い、その資本構成が良いのか否かを考察するものです。これらの基礎を用いて、社会や企業で生じている諸問題を考察します。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 企業ファイナンスの専門用語を理解することができる。																
目標2 企業ファイナンスの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。																
目標3 企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。																
目標4 企業の社会的責任の重要性を理解できる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション																
2 貨幣の時間価値																
3 資金調達 株式と社債の評価																
4 資本予算																
5 債権の利回り																
6 債権の利回り																
7 不確実性とリスク																
8 中間試験																
9 リスク回避と資産の収益性																
10 期待収益率とリスク																
11 ポートフォリオ理論																
12 資本資産評価モデル(CAPM)																
13 資本コストと企業評価																
14 M&A																
15 予備日																
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義中に時事経緯財および経営問題を提示し、質疑している。またレポートを提出させている。				工夫	その									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	日経新聞などで、時事経済・経営の問題について事前に学習するよう指導している。														
	事後学修	講義中の問題を解答させている。														
教科書	未定。 毎回ハンドアウトを配布する。															
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall). 市村昭三編『財務管理論』創成社出版,1999年。 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007.															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	講義中の発言	20%														
	レポート	10%														
	中間テスト	20%														
	期末テスト	50%														
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。															
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	公認会計士事務所顧問、株式会社非常勤監査役

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M411	物流概論(Introduction to Logistics System)					経営システム学科 経営システム学科						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	前期	木3	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)						
授業の概要	本講義では、物流(主に国内物流)の現状と、物流の理解に関して必要となる基礎知識について解説します。それにより、受講者が物流の基礎を理解し、この分野への関心を持つきっかけを作り、後期開講の国際物流論受講への前提知識を把握してもらうことが狙いです。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	物流に関する社会事象の背景を理解すること											
目標2	物流の問題が身近な経済活動に関連していることを理解し、就業先選択の一助となること											
目標3	物流が関連する社会問題に対して、基礎的な知識を活かして受講生自らの見解を考えることができるようになること											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	講義の説明とイントロダクション - なぜ物流が重要か											
2	物流の基礎(1) 物流とは何か・物流の種類											
3	物流の基礎(2) 物流の発展											
4	物流の基礎(3) 物流の生産要素・機能と構成											
5	物流の基礎(4) 物流の生産要素・機能と構成											
6	物流の基礎(5) ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント											
7	物流の基礎(6) 物流と保険・通関について											
8	(予定) 国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内でレポートを課します)											
9	国内物流の現状(1) 陸上輸送											
10	国内物流の現状(1) 陸上輸送											
11	国内物流の現状(2) 海上輸送											
12	国内物流の現状(2) 海上輸送											
13	国際物流へのつながり											
14	進度調整											
15	講義のまとめ(進度によって割愛)											
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、次回以降の講義でリプライします。ミニッツペーパーは出席回数の把握(出席チェック)にも使用します。				工 夫 そ の 他 の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけられており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数が多い人にはレポート点からのペナルティを課します。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る物流関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係づけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます(15h以上)。 事後 講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとなお良いです(あわせて30h以上)。										
教科書	使用しません(適切な書物がないため、講師が資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。											
参考書	森隆行(2018)『現代物流の基礎(第3版)』同文館(どうぶんかん)出版 柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店 (社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験(記述式、資料参照可)	50%										
	講演会時のレポート	50%										
学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。 レポートは、4回以上欠席の場合はペナルティとして減点します(10%~50%)。7回以上欠席の場合は0点とします(成績評価の対象外)。												
注意事項	(1)学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2)欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとしてレポート点を減点します(10%~50%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFとします)。											
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者（過年度は物流事業者）を招聘しての講演会を行います。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与）を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M411		国際物流論(International Logistics System)				経営システム学科 経営システム学科											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経	後期	木1	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)											
授業の概要	本講義では、前期開講の物流概論で得た基礎知識を踏まえ、港湾・海運・航空といった国際物流の実際について理解するとともに、国際物流におけるトピックスについて、社会経済とのつながりを考えながら理解するためのきっかけ作りを狙いとします。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 国際物流の実際(港湾・海運・航空)に関する基礎知識を理解し、就業先選択等に役立てるようにすること																	
目標2 国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)が現状の社会経済事情に関連することを理解すること																	
目標3 国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)に対して自らの意見を言えるようになること																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 イントロダクション 港湾整備の問題(1) 物流の中の港湾の位置づけ、港湾の数と種類																	
2 港湾整備の問題(2) 港湾の構成要素																	
3 港湾整備の問題(3) 港湾整備の制度と財源																	
4 国際海上輸送の問題(1) 外航海運の現状																	
5 国際海上輸送の問題(2) 海運市場の特徴																	
6 国際海上輸送の問題(3) 外航海運企業について																	
7 進度調整																	
8 (予定)国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内にレポートを課します)																	
9 航空貨物の問題(1) 航空貨物の現状																	
10 航空貨物の問題(2) 航空貨物の歴史																	
11 航空貨物の問題(3) 航空貨物の仕組みと主体																	
12 国際物流の課題とトピックス(1) 港湾整備・国際海上輸送																	
13 国際物流の課題とトピックス(2) 航空貨物・規制緩和・トピックス																	
14 進度調整																	
15 まとめ(進度によって割愛)																	
ラック	A:知識の定着・確認	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、次回以降の講義でリプライします。				工夫 その 他の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数が多い人にはレポート点からのペナルティを課します。										
ニ	B:意見の表現・交換	このミニッツペーパーは、出席チェック(出席回数の把握)にも使います。															
ン	C:応用志向																
グ	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る物流関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係づけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます(15h以上)。															
	事後学修	講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとよいです。(あわせて30h以上)															
教科書	使用しません(適切な書物がないため、資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。																
参考書	鈴木暁(2009)『国際物流の理論と実務(四訂版)』成山堂書店 汪(ワン)正仁(2006)『ビジュアルでわかる国際物流(改訂版)』成山堂書店 (社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	学期末試験(記述式、資料参照可)	50%															
	講演会開催時に課すレポート	50%															
学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。 レポートは、4回以上欠席の場合はペナルティとして減点します(10%~50%)。7回以上欠席の場合は0点とします(成績評価の対象外)。																	
注意事項	(1)学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2)欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとしてレポート点を減点します(10%~50%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFと)																
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者（過年度は物流事業者）を招聘しての講演会を行います。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与）を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K232M302	会計学 (Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経	前期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail 内線 7691										
授業の概要	この授業では、ビジネスに携わる人であれば誰でも必要となる会計の基礎を学びます。「会計学入門」や「初級簿記」では主に、企業活動を記録・計算する仕組みを学習しました。この授業では記録・計算の側面だけでなく、その背後にある考え方や、作成された会計書類の使い方も学習していきます。また、有名企業に関する新聞記事などを取り上げることで、学んだ知識と現実の企業活動との結びつきをイメージできるようにします。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	財務会計の基本的な用語や考え方を文脈に応じて適切に利用できる。															
目標2	損益計算書と貸借対照表の主要な項目について、関連する会計処理(仕訳、転記、科目残高の計算)を行うことができる。															
目標3	損益計算書と貸借対照表を用いて、企業の収益性・安全性に関する基本的な分析を行うことができる。															
目標4	会計制度・会計処理の概要やその背後にある考え方を文章で論理的に説明できる。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス: 授業のねらい・成績評価方法などの説明、会計学分野の全体像と学び方																
2 企業会計への法規制: 会社法・金融商品取引法・法人税法による会計																
3 利益計算の仕組み: 企業活動の描写、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表																
4 利益計算のルール: 会計基準の必要性、会計基準の設定、損益計算書原則と貸借対照表原則																
5 売上高と売上債権: 営業循環における収益の認識、利益計算への影響の比較、売上債権																
6 棚卸資産と売上原価: 棚卸資産の範囲、取得原価、原価配分、期末評価																
7 固定資産と減価償却(1): 固定資産の範囲と区分、取得原価、原価配分(減価償却)																
8 固定資産と減価償却(2): 固定資産の原価配分(減損、除却・売却による損益)、繰延資産																
9 金融活動の資産と損益: 現金預金の範囲と管理、有価証券の範囲と区分、有価証券の取得原価と期末評価																
10 営業上の負債と他人資本: 負債の範囲と区分、営業上の負債、引当金																
11 資本の充実と剰余金の分配: 資本の意味と区分、資本金と資本剰余金、留保利益とその分配																
12 財務諸表の作成と報告(1): 法定された会計報告書、損益計算書・貸借対照表の内容																
13 財務諸表の作成と報告(2): 株主資本等変動計算書の内容、会計方針の注記																
14 財務諸表による経営分析: 収益性の分析、安全性の分析																
15 まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業前の予習課題(不明点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工夫	その他									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	次回の授業で取り上げる内容について教科書を確認する(14h)。														
	事後学修	理解を問う確認テストに解答できるよう復習する(28h)。これまでの簿記・会計の学修との関係を考える(7h)。														
教科書	桜井久勝(2018)『会計学入門(第5版)』日経文庫。															
参考書	片山覚ほか(2020)『入門会計学(改訂版)』実教出版。 川島健司(2021)『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社。 桜井久勝(2019)『財務会計の重要論点』税務経理協会。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	予習・復習課題	25%														
	期末試験	75%														
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。															
備考	本科目は中級レベル(2年次向け)ですが、入学時点で日商簿記検定3級以上を取得済みの人には1年次での履修を認めます。それ以外の人は「会計学入門」と「初級簿記」を履修した上で、2年次以降にこの科目を履修してください。また、「中級簿記」「株式会社簿記」を併せて履修することが望ましいです。															
リンク																
	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M412	会計学 (Accounting II)					経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経	後期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail 内線 7691										
授業の概要	近年の企業では、輸出入などの国際活動が日常化しており、子会社などを利用したグループ経営も一般的となってきました。また、日商簿記検定2級においても、2017年度からは外貨建取引や連結会計などの応用領域が出题されるようになりました。そこでこの授業では、日商簿記検定2級(商業簿記)の内容のうち、前期の「中級簿記」「株式会社簿記」や「会計学I」で取り上げられなかった応用領域を学習します。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	2024年2月の日商簿記検定2級(商業簿記)で出題されるレベルの問題を解くことができる。															
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	「会計学 I」の復習：収益・費用の認識基準															
2	「中級簿記」の復習：資産の会計															
3	「株式会社簿記」の復習：負債・資本の会計															
4	決算手続(1)：精算表の作成															
5	決算手続(2)：帳簿の締切り															
6	決算手続(3)：貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書の作成															
7	本支店会計(1)：本支店間取引・支店間取引															
8	本支店会計(2)：決算手続															
9	連結会計(1)：資本連結 (連結財務諸表の基礎知識、支配獲得日の連結)															
10	連結会計(2)：資本連結 (支配獲得後1期目の連結)															
11	連結会計(3)：資本連結 の続き(支配獲得後2・3期目の連結)															
12	連結会計(4)：成果連結(内部取引高と債権・債務の相殺消去、未実現損益の消去)															
13	連結会計(5)：連結株主資本等変動計算書の作成															
14	キャッシュ・フロー計算書															
15	まとめ															
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	授業前の予習課題(不明な点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで予習課題を解く(14h)。														
	事後学修	理解を問う確認テスト、期末試験に向けた学習を行う(35h)。														
教科書	TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。															
参考書	CPA会計学院(2022)『いちばんわかる日商簿記 2級商業簿記の教科書』アガルト・パブリッシング。 滝澤ななみ(2022)『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記(第1版)』TAC出版。 山地範明(2021)『エッセンシャル連結会計(第2版)』中央経済社。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	予習・課題提出	25%														
	期末試験	75%														
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。															
備考	前期の「中級簿記」「株式会社簿記」や「会計学」と内容が密接に関連しているため、併せて履修してください。日商簿記検定2級の合格を目指す人は、「原価計算論」も履修することが望ましい。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K243M414	会社会計論 (Business Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	オンライン(同時双方向型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経	前期	木2	氏名 中村 美保 E-mail nakamura@oita-u.ac.jp 内線 7669						
授業の概要	株式会社を取り巻く財務報告・会計制度の仕組みおよび役割について解説する。特に会計制度と企業経営の関係について講義する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	会計制度の基本ルールを理解すること。											
目標2	企業への会計制度の影響を理解すること。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	経済社会と現代会計(ガイダンス)											
2	財務会計の役割											
3	会計制度の基本ルール											
4	ディスクロージャー制度と企業(法的開示関連)											
5	ディスクロージャー制度と企業(自発的開示の機能)											
6	損益計算書の仕組み											
7	損益計算書の読み方											
8	会計利益の測定と企業業績											
9	会計利益の質と業績開示											
10	キャッシュフロー計算書を読む											
11	キャッシュフロー計算書の見方											
12	貸借対照表の意味と仕組み											
13	貸借対照表の読み方											
14	資産の会計											
15	持分の会計											
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に関連トピックについてのディスカッションを行う。受講生はそのための準備が必要。					工夫 その他					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	予習として、参考書等の該当箇所を事前に読み、分からないところは調べる(30時間)。授業中に提示した課題について取り組むこと(20時間)。										
	事後 学修	参考書等の該当箇所の復習(15時間)および関連事項の情報収集と分析(30時間)。										
教科書	適宜指定する。											
参考書	伊藤邦雄著『新・現代会計入門(最新版)』日本経済新聞社 他、適宜指定する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期テスト	60%										
	レポート	40%										
注意事項	簿記は得意である必要はありませんが、日商3級簿記程度の仕訳を理解する能力があることを前提に授業を進めていきます。											
備考	状況によりオンライン(双方向)の実施になる可能性があります。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K243M415	会社会計論 (Business Accounting II)					主専門科目 その他	オンライン(同時双方向型)											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名 中村 美保 E-mail nakamura@oita-u.ac.jp 内線 7669												
授業の概要	株式会社を取り巻く会計制度の仕組みおよび役割について解説する。また近年のわが国における会計制度の変化と株式会社に対する影響について講義する。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	会計制度が企業に及ぼす影響を理解する。																	
目標2	財務諸表分析ができるようになる。																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	有価証券の会計																	
2	有価証券の時価評価と経済的影響																	
3	企業年金の会計																	
4	企業年金の会計と年金給付の変化																	
5	ストックオプションの会計																	
6	ストックオプションとその是非																	
7	連結グループの会計																	
8	連結グループの会計とその仕組み																	
9	連結情報の開示																	
10	連結情報の開示と分析																	
11	企業結合の会計																	
12	のれんの会計の検討																	
13	企業評価にむけて(財務諸表分析)																	
14	企業評価にむけて(つづき)																	
15	全体のまとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に関連トピックについてのディスカッションを行う。					工	その										
	B:意見の表現・交換						夫	他										
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	シラバスの該当箇所について参考書等を事前に読んでくること(30時間)。																
	学修	授業中に提示した課題に取り組むこと(20時間)																
	事後	授業関連の該当箇所について、参考書等を復習すること(20時間)。また関連事項について情報収集および分析をすること(30時間)。																
	学修																	
教科書	適宜指定します。																	
参考書	伊藤邦雄著『新・現代会計入門(最新版)』(日本経済新聞社)およびその他適宜指定します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	定期テスト	60%																
	レポート	40%																
注意事項	会計学の基礎的知識および会社会計論 程度の内容を習得済みと見なして、授業を進めていきます。																	
備考	状況によりオンライン(同時双方向)による実施の可能性があります。																	
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M416		監査論 (Auditing)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3,4	経	前期	金4	氏名 越智 学 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp 内線 7700										
授業の概要 本講義では、財務諸表監査について学習する。財務諸表監査の目的は、経営者の作成した財務諸表が企業の財政状態等を適正に表示しているか否かを監査人が判断し、その結果を意見として表明することにある。したがって、投資家をはじめとする財務諸表利用者が適切な意思決定を行うためには、利用者自身が財務諸表監査の役割や限界を認識し、監査報告書を通して伝達される監査人の意見を正しく理解しなければならない。監査人のような職業的専門家でなくとも、財務諸表を利用する可能性がある限り、財務諸表監査に関する基礎知識は不可欠である。監査論では、具体的な監査の実施プロセスや監査報告書の内容には踏み込まず、基本的な財務分析と会計不正問題を中心に学習することで、財務諸表監査の必要性を理解する。そもそも、財務諸表監査はなぜ必要なのか。財務諸表利用者の立場から考えてもらいたい。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 実際の財務諸表を読み、基本的な分析ができる																
目標2 代表的な会計不正の手法を理解し、財務諸表に与える影響を具体的な項目や数字で説明できる																
目標3 財務諸表監査の必要性を理解し、簡潔に説明できる																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション：講義の概要と目的																
2 決算書（財務諸表）の役割と入手方法																
3 有価証券報告書の読み方																
4 貸借対照表の読み方																
5 損益計算書の読み方																
6 キャッシュ・フロー計算書の読み方（1）																
7 キャッシュ・フロー計算書の読み方（2）																
8 財務諸表分析(1)：収益性分析																
9 財務諸表分析(2)：効率性分析																
10 財務諸表分析(3)：安全性分析																
11 クロス・セクション分析(1)：同業他社比較																
12 クロス・セクション分析(2)：同業他社比較																
13 時系列分析：前年比較・トレンド分析																
14 財務諸表分析と不正会計																
15 会計不正と公認会計士監査																
ラーニング	A:知識の定着・確認	財務諸表など、講義中に実際の企業データを用いて分析等を行う。履修者数次第ではグループワークも実施する。					工夫	その他の								
ラーニング	B:意見の表現・交換															
ラーニング	C:応用志向															
ラーニング	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次回の講義で取り上げる教科書・資料の範囲に目を通す（7h）。講義内で使用する有価証券報告書などの資料を収集する（3h）。														
時間外学習の内容と時間の目安	事後	学習内容について、理解不足がないか再確認する（7h）。課題レポートを作成する（14h）。														
教科書	関連書籍の改訂状況に応じて使用テキストを決定するため、第1回のイントロダクションで指定する。 現時点では、木村直人（2022）『これならわかる決算書キホン50！ 2023年版』中央経済社、を予定している。															
参考書	佐伯良隆（2022）『100分でわかる！決算書「分析」超入門 2023』朝日新聞出版。 林總（2023）『経営分析の基本：この1冊ですべてわかる 新版』日本実業出版社。 矢島雅己（2022）『決算書はここだけ読もう 2023年版』弘文堂。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	提出課題	40%														
	期末試験	60%														
履修者数次第では期末試験がレポートになることがある。																
注意事項	監査論を学習するための入門講義であるが、位置づけが3,4年次の履修を想定した会計講座の専門発展科目であることに変わりはない。簿記および財務会計の基本的な知識を前提とするため、最低限、会計学入門、初級簿記および会計学を履修済みであることが望ましい。															
備考	履修者数に応じて授業スタイル（講義形式、演習形式など）を変更する。履修登録の状況で判断し、詳細な講義計画をイントロダクションで説明するので第1回から必ず出席すること（演習形式とする場合、欠席者は受講資格を失う可能性がある）。															
リンク																
	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K243M417	監査論 (Auditing II)					主専門科目 その他	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3, 4	経	後期	金4	氏名 越智 学 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp 内線 7700						
授業の概要	本講義では、財務諸表監査について学習する。財務諸表監査の目的は、経営者の作成した財務諸表が企業の財政状態等を適正に表示しているか否かを監査人が判断し、その結果を意見として表明することにある。したがって、投資家をはじめとする財務諸表利用者が適切な意思決定を行うためには、利用者自身が財務諸表監査の役割や限界を認識し、監査報告書を通して伝達される監査人の意見を正しく理解しなければならない。監査人のような職業的専門家でなくとも、財務諸表を利用する可能性がある限り、財務諸表監査に関する基礎知識は不可欠である。監査論 では、監査論 で学習した財務諸表監査の必要性に続き、具体的な監査の実施プロセスや監査報告書の内容について学習していく。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1 財務諸表監査の役割や限界を説明できる	1	2	3	4	5	6	7					
目標2 監査報告書を読み、監査人のメッセージを識別できる												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	イントロダクション：講義の概要と目的、財務諸表監査の必要性											
2	会計監査とその基本的役割											
3	会計監査の現代的機能											
4	金融商品取引法に基づく監査制度											
5	会社法に基づく会計監査制度											
6	職業監査と監査基準ならびに職業倫理											
7	会計監査の進め方(1)：リスク・アプローチ											
8	会計監査の進め方(2)：監査計画											
9	会計監査の進め方(3)：リスク評価と監査手続											
10	会計監査の進め方(4)：監査の完了まで											
11	会計監査と不正への対応											
12	監査意見と監査報告書											
13	監査意見の種類と諸問題											
14	内部統制監査											
15	監査の品質管理											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義形式の場合はミニテスト、演習形式の場合は報告またはプレゼンテーションを課す。また、講義中にランダムで履修者に質問を振ることがある。					工 夫 其 他 の					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	次回の講義で取り上げる教科書・資料の範囲に目を通す(7h)。										
	事後 学修	学習内容について、理解不足がないか再確認する(7h)。課題レポートを作成する(14h)。										
教科書	関連書籍の改訂状況に応じて使用テキストを決定するため、第1回のイントロダクションで指定する。 現時点では、山浦久司(2022)『監査論テキスト(第8版)』中央経済社、を予定している。											
参考書	伊豫田隆俊他(2022)『ベーシック監査論(九訂版)』同文館出版。 蟹江章他(2022)『スタンダードテキスト監査論(第6版)』中央経済社。 長吉真一他(2022)『監査論入門(第5版)』中央経済社。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	提出課題	40%										
	期末試験	60%										
注意事項	3, 4年次の履修を想定した会計講座の専門発展科目である。講義は簿記および財務会計の基本的な知識を前提として進むので、基礎・中級レベルの会計関連科目を履修していない場合、講義内容が理解できないなどの不利益が生じる。また、監査論 が未履修の場合、相当の自習を要する。											
備考	受講人数に応じて講義スタイル(講義形式、演習形式など)を変更する。履修登録の状況で判断し、詳細な講義計画をイントロダクションで説明するので第1回から必ず出席すること(演習形式とする場合、欠席者は受講資格を失う可能性がある)。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K243M418		管理会計論 (Management Accounting I)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3,4	経	前期	水2	氏名 大崎 美泉 E-mail yosaki@oita-u.ac.jp 内線										
授業の概要	<p>管理会計は、マネジメントに必要な情報の提供を目的とする会計で、経営者や経営管理者による経営戦略の策定、利益計画の設定や予算管理を実施、課業管理の展開に役立つ情報を作成、伝達するものです。</p> <p>本講義は、管理会計の特質、機能、体系に関する総論からスタートし、経営戦略のための会計という観点から、経営戦略の意義と重要性、経営戦略の策定プロセスや方法、経営戦略の決定に有用な管理会計情報の作成と伝達に関わる理論やツールについて学んでいきます。</p>															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 管理会計の概略を学ぶ事で、管理会計の全体像を把握できる。																
目標2 企業の経営戦略の策定における管理会計の役割を説明できる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション：授業の進め方と評価方法の把握																
2 企業管理と会計：経済社会における企業会計の役割の理解																
3 財務会計と管理会計：企業会計の2大領域の理解																
4 管理会計の構造と機能：管理会計の基本の理解																
5 管理会計の適合性喪失と再生：管理会計の盛衰の把握																
6 管理会計の発展系譜：管理会計の歴史の理解																
7 管理会計の体系：管理会計の体系と全体像の把握																
8 経営戦略の意義と管理会計：現代の企業経営の必須事項の理解																
9 戦略的経営計画と長期利益計画：経営戦略と管理会計の関係性の理解																
10 PPMと管理会計：経営戦略に関わる管理会計技法の理解																
11 原価企画：製造業における環境変化の理解																
12 原価企画：日本発の管理会計技法の修得																
13 戦略的コストマネジメント：原価計算の発展形の理解																
14 価格戦略：戦略的価格決定理論の理解																
15 投資戦略と管理会計：長期的視野に立った管理会計の理解																
ラーニング	A:知識の定着・確認	・学習した内容と実際の企業の行動との関連性を問うレポートを作成する。				工夫	・企業の新しい動きに関する情報をアップデートで紹介する。									
	B:意見の表現・交換					その										
	C:応用志向					他										
	D:知識の活用・創造					の										
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前に教科書や参考書、課題プリント等を読んでおく。(15h)														
	学修	企業の活動に関する実際のニュースを読んでおく。(15h)														
	事後	講義の内容と現実の企業の活動との関連性を考える。(15h)														
	学修															
教科書	上総康行『管理会計論(第2版)』(新世社、2017)															
参考書	西村明、大下丈平『ベーシック管理会計(新版)』(中央経済社、2014) その他、適当な文献を講義中に紹介します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験の成績	50%														
	授業への参加度	30%														
	レポート	20%														
注意事項	管理会計論IIと合わせて受講すると管理会計の全体像がより良く理解できます。															
備考																
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	地方銀行社外取締役

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K243M419		管理会計論 (Management Accounting II)				経営システム学科 経営システム学科	対面													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経	後期	水2	氏名 大崎 美泉 E-mail yosaki@oita-u.ac.jp 内線 7699														
授業の概要	<p>管理会計は、マネジメントに必要な情報の提供を目的とする会計で、経営者や経営管理者による経営戦略の策定、利益計画の設定や予算管理の実施、課業管理をの展開に役立つ情報を作成、伝達するものです。</p> <p>本講義は、「管理会計論Ⅰ」に引き続いて、総合管理のための会計(マネジメント・プランニング・アンド・コントロール)という観点から、短期利益計画、予算管理、業績評価システム、事業部制会計について学習していきます。また、オペレーショナル・コントロール(課業管理)のための会計という観点から、生産管理の会計についても学んでいきます。</p>																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	「管理会計論」において修得した戦略的管理会計に関する知識を確かなものにする。																			
目標2	経営管理の要諦であるマネジメント・プランニング・アンド・コントロールを理解する。																			
目標3	オペレーショナル・コントロールの概要を理解する。																			
目標4	管理会計の新しい展開方向について理解する。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 総合管理のプロセス : マネジメント アンド コントロールの意味を理解する																				
2 短期利益計画 : 短期利益計画と戦略的計画との違いを理解する																				
3 CVP分析 : 変動費、固定費、売上高との関係を理解する																				
4 限界利益分析 : 限界利益による経営意思決定について考える																				
5 総合管理としての予算 予算を利用した利益計画について理解する																				
6 予算管理の基本機能 : 予算の持つ計画機能、調整機能、統制機能について考える																				
7 事業部制会計 : 経営組織形態としての事業部制について理解する																				
8 内部振替価格と共通費の配賦 : 事業部制会計における問題点について考える																				
9 経営組織の変革 : 事業部制の新しいあり方について考える																				
10 価格政策 : 価格決定の仕方について理解する																				
11 オペレーショナル・コントロール : JIT、MRP、ERPについて理解する																				
12 管理会計の展開 : BSC (バランススコアカード) について理解する																				
13 病院マネジメント : 医療政策の展開と病院経営の課題について理解する																				
14 病院の原価計算 : 診療科別原価計算や疾患別原価計算について理解する																				
15 まとめ : 管理会計 と管理会計 を通じて、管理会計の全体像に関する知識を確認する																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	・学習内容と実際の企業活動との関連性を問うレポートを作成してもらう。																		
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前に教科書や参考書、課題プリント等を読んでおく。(15h)																		
	学修	企業活動や医療政策に関するニュースを読んでおく。(15h)																		
	事後	講義の内容と企業や病院の実際の活動との関連性を考える。(15h)																		
	学修																			
教科書	上総康行『管理会計論(第2版)』(新世社、2017)																			
参考書	西村明、大下丈平『ベーシック管理会計(新版)』(中央経済社、2014) その他、適当な文献を講義中に紹介します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末試験の成績	50%																		
	授業への参加度	30%																		
	レポート	20%																		
注意事項	「管理会計論」と合わせて受講すると管理会計の全体像がより良く理解できます。																			
備考																				
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	地方銀行社外取締役

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M413	原価計算論I(Cost Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3	経	前期	木3	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695										
授業の概要	本講義では、製造業で行われている複式簿記(工業簿記)と有機的に結びついて実施される製品原価計算の理論と計算方法を学習します。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	日本商工会議所簿記検定試験2級工業簿記レベルの理解を目標としています。															
目標2	なお、2級取得を目指す学生は、中級簿記・株式会社簿記(旧簿記)、会計学の科目も併せて履修するようにしてください。															
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	個別原価計算の記帳体系															
2	材料費会計															
3	労務費会計															
4	経費会計、製造間接費会計															
5	単純個別原価計算、工企業の財務諸表															
6	部門別計算															
7	工場会計															
8	総合原価計算の記帳体系															
9	単純総合原価計算															
10	工程別総合原価計算															
11	組別・等級別総合原価計算、標準原価計算(1)															
12	標準原価計算(2)															
13	標準原価計算(3)															
14	損益分岐分析															
15	固定分解															
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義した内容を練習問題で理解度を確認していきます。				工夫 その他	学習内容によって、実務的な利用の仕方をご紹介します。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	事前に配布したレジユメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べるようにしましょう(15h)。 本講義では、復習が大切になります。会計科目は、その時にできても計算練習をし続けなければすぐに忘れてしまうからです。同じ問題を何回も解きましょう(30h)。														
教科書	プリントを配布します。なお、下記の参考書にある問題集(5月中旬発売予定)は、授業で使用しますので、準備してください。															
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集 商業簿記・工業簿記2級 令和5年度版』 実教出版(予定)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	小テスト(課題提出を含む)	30%														
	定期試験	70%														
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくといよ。															
備考	初級簿記または、日本商工会議所簿記検定3級取得レベルを前提とします。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K242M414		原価計算論II(Cost Accounting II)					経営システム学科 経営システム学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	2,3	経	後期	木3	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695													
授業の概要	原価計算を実施する目的には、財務諸表作成目的、価格計算目的、原価管理目的、予算管理目的、基本計画設定目的があげられます。原価計算論では、主として企業外部の利害関係者に必要な会計情報を提供するための財務諸表作成目的としての原価計算の理解を深めてきました。これに対し、本講義では、主として企業内部の経営管理に有用な原価計算技法について学習します。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 製造業で行われている製品原価計算の応用的な理論と計算技術の習得を目指します。																			
目標2 経営管理に有用な原価計算技術の習得を目指します。																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 原価計算論 の総復習																			
2 直接原価計算(1)																			
3 直接原価計算(2)																			
4 直接原価計算(3)																			
5 製造間接費差異分析																			
6 部門別原価計算の基礎(1)																			
7 部門別原価計算の基礎(2)																			
8 部門別原価計算の基礎(3)																			
9 仕損費と作業屑及び減損の処理(1)																			
10 仕損費と作業屑及び減損の処理(2)																			
11 副産物の処理																			
12 部門別原価計算の応用(1)																			
13 部門別原価計算の応用(2)																			
14 Activity-Based Costingと原価企画																			
15 まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義内容の確認のために、練習問題を行います。					工夫 その他	練習問題を解かせるだけでなく、その計算結果がどのような意味を持つのかも講義していきます。											
	B:意見の表現・交換	講義の中で、受講生同士で話し合う時間を設ける場合(理論的な箇所です)があります。																	
	C:応用志向	実務的な利用方法も状況に応じて紹介します。																	
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前に配布したレジュメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べるようにしましょう(15h)。																	
	事後	事後の学習が特に重要となります。それは、講義の中で覚えたつもりになっている知識が、時間とともにすぐ忘れてしまうからです。したがって、同じ問題を学修 何度も復習するようにしましょう(30h)。																	
教科書	毎回プリントを配布します。																		
参考書	適宜指定します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	小テスト	15%																	
	レポート	15%																	
	定期試験	70%																	
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくとい。																		
備考	原価計算論 と併せて履修することが望ましい。																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K241M403		初級簿記(Elementary Bookkeeping)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2	氏名 越智 学(単独履修)・山根 陽一(並行履修)										
						E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp(越智)・TBD(山根) 内線 7700(越智)・TBD(山根)										
<p>授業の概要</p> <p>会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。会計の書類を作成するための技術が簿記であり、日商簿記検定3級レベル(小規模企業を対象とした簿記)の内容は、ビジネスパーソンに必須の基礎知識であると言われています。また、会計学分野の中級・応用科目を学ぶ際には、簿記の基礎知識をすでに習得していることが前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定3級レベルの基礎的な計算技術を学習します。本講義の具体的な達成水準は、2月に実施される日商簿記検定3級の合格です(検定試験自体は、6月・11月にも実施されます)。本講義は、同検定試験の受験を強制するものではありませんが、学習の達成目標として意識し、達成度を測る道具として積極的に利用してもらいたいと考えています。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 簿記の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。																
目標2 小規模企業の簿記一巡の手続き(日商簿記検定3級レベル)を行うことができる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス+「会計学入門」の補足:現金過不足,当座借越																
2 「会計学入門」の補足:総勘定元帳の締切り																
3 期中の手続き(1):約束手形,手形貸付金・手形借入金,電子記録債権・債務の記帳																
4 期中の手続き(2):未収入金・未払金,立替金・預り金,仮払金・仮受金の記帳																
5 期中の手続き(3):消費税の期中取引,その他の取引,訂正仕訳																
6 決算の手続き(1):現金過不足の整理,当座借越・貯蔵品の振替え,精算表の作成(1)																
7 決算の手続き(2):商品の決算整理																
8 決算の手続き(3):貸倒引当金の計上																
9 決算の手続き(4):貸倒引当金の計上,有形固定資産の減価償却																
10 決算の手続き(5):有形固定資産の減価償却,消費税の整理																
11 決算の手続き(6):費用・収益の前払い・前受け,当座借越・貯蔵品の再振替																
12 決算の手続き(7):費用・収益の未払い・未収,法人税等の整理																
13 決算の手続き(8):決算整理後残高試算表																
14 決算の手続き(9):精算表の作成(2)																
15 決算の手続き(10):損益計算書と貸借対照表の作成																
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義中の穴埋め資料,授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む),授業後の復習課題(授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工夫	日商簿記検定3級の出題範囲に対応するため,クラス制を採用する。									
モチベーション	B:意見の表現・交換					その他の										
ディベロップメント	C:応用志向															
グ	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(7h)。														
	事後	復習課題を解く(15h)。期末試験に向けた学習を行う(18h)。														
教科書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。 TAC簿記検定講座(2023)『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.14.0』TAC出版。															
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『合格テキスト 日商簿記3級 Ver.14.0』TAC出版。 TAC簿記検定講座(2023)『合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2023年AW対策』TAC出版。 実教出版企画開発部(2023)『2023年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	提出課題	25%														
	期末試験	75%														
注意事項	毎回,電卓を持参すること。 初回の授業において,前期の「会計学入門」の理解度を確認するテストを行い,そこで一定以上の点数を取った人を対象にして授業を進めていきます。															
備考	教養教育科目「簿記の基礎」(後期・金曜2限)と「初級簿記」を併せて履修した場合,並行履修クラスに配属されます。「初級簿記」のみを履修した場合,単独履修クラスに配属されます。日商簿記検定3級の出題範囲を網羅したい人は,並行履修クラスで学習する必要があります。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K242M415		中級簿記(Intermediate Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経	前期	金3	氏名 森 美智代(非常勤講師)												
						E-mail 内線												
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容を学んでいきます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 日商簿記2級商業簿記の個別論点の前半部分に関する記帳を行うことができる。																		
目標2 債権・債務/有形固定資産/引当金に関して新しく追加された取引の仕訳処理を行うことができる。																		
目標3 精算表の作成が理解できる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス(講義の進め方・成績評価について説明)、日商簿記検定3級の総復習																		
2 簿記一巡の手続き【取引 仕訳帳へ仕訳 元帳への転記 決算手続:試算表作成 決算整理 精算表作成 損益計算書・貸借対照表】																		
3 財務諸表:形式(報告式/勘定式)・二つの流れの決算手続・企業の財務諸表の開示																		
4 商品売買(1):分記法・総記法、商品勘定・売上原価勘定と売上高勘定・三分法による商品の期末評価																		
5 商品売買(2):精算表における商品の期末処理																		
6 現金および預金:現金処理の取引・決算時における現金処理・小口現金の処理・当座預金の処理・銀行勘定調整表																		
7 債権・債務(1):手形の復習・クレジット売掛金・電子記録債権・債務																		
8 債権・債務(2):その他の債権及び債務(復習)・その他の債権の譲渡・債務の保証																		
9 有価証券(1):有価証券の分類・株式の処理・時価評価の評価(洗替法・切放法)																		
10 有価証券(2):公社債の処理・端数利息の支払いと受け取り・償却原価法																		
11 有形固定資産(1):有形固定資産の減価償却方法(定額法・定率法)																		
12 有形固定資産(2):200%定率法・均等償却への切り替え・生産高比例法																		
13 有形固定資産(3):固定資産の購入(割賦・約束手形による割賦購入)と売却・除去・破棄・火災・建設仮勘定・改良と修繕・圧縮帳																		
14 引当金:貸倒引当金(復習)・その他の引当金(修繕引当金・退職給付引当金・商品保証引当金・賞与引当金・役員賞与引当金等)																		
15 まとめ:これまでの講義のテーマについて練習問題をとおり理解を確認する。																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の課題					工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料や教科書等の情報に必要な応じて予習する(7h)。																
	事後	宿題を解く(7h)。小テストや期末試験に向けた学習をする(14h)。																
教科書	TAC簿記検定講座(2023)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版(税別2,400円)。 TAC簿記検定講座(2023)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版(税別1,800円)。																	
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『2023年度版 日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(2023年4月発売) TAC簿記検定講座(2023)『TAC直前予想 日商簿記2級』(2023年3月(8月、12月)発売)																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎回の授業開始時に行う小テスト或いは出題課題	30%																
	期末試験	70%																
注意事項	電卓を必ず持参すること。毎回課題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。																	
備考	日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。 なお、日商簿記2級商業簿記の出題範囲は、「中級簿記」(前期)、「株式会社簿記」(前期集中)、「会計学II」(後期・金曜4限)、合計3科目(6単位)の																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K242M416	中級簿記補論(Practical Intermediate Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2,火4	氏名 越智 学・山根 陽一 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・TBD (山根) 内線 7700 (越智)・TBD (山根)												
授業の概要	本講義のねらいは、ティーチングによる学習を通じて、簿記能力の向上を図ることにある。簿記の背後には、「なぜそのような処理を行うのか」という理論が存在しているが、資格取得を目的とした簿記学習ではこうした理論を理解するよりも、機械的・形式的な暗記が優先されることが多い。しかし、暗記のみに頼った学習は応用力を欠き、本来の意味で簿記を習得したとはいえない。本講義では、日商簿記3級以上の合格者を対象とし、模擬講義によるティーチングを体験する。教えるという立場から簿記に取り組み、その仕組みや理論をあらためて考えてもらいたい。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	機械的・形式的な方法ではなく、簿記の理論に基づいた説明を行うことができる。																	
目標2	仕訳をはじめとする帳簿記入の方法を、初学者にもわかりやすく説明できる。																	
目標3	他者との協働(グループでの模擬講義の準備など)を通じて、プレゼンテーションの質を高めることができる。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	イントロダクション：講義の目的と進め方																	
2	模擬講義(第1回)：学習目標と授業プランの検討																	
3	模擬講義(第1回)：授業資料(案)の作成																	
4	模擬講義(第1回)：リハーサル																	
5	模擬講義(第1回)：実践(1)																	
6	模擬講義(第1回)：実践(2)																	
7	模擬講義(第2回)：学習目標と授業プランの検討																	
8	模擬講義(第2回)：授業資料(案)の作成																	
9	模擬講義(第2回)：リハーサル																	
10	模擬講義(第2回)：実践(1)																	
11	模擬講義(第2回)：実践(2)																	
12	模擬講義(第3回)：授業資料(案)の作成																	
13	模擬講義(第3回)：リハーサル																	
14	模擬講義(第3回)：実践(1)																	
15	模擬講義(第3回)：実践(2)																	
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	受講者同士の模擬講義,ピアレビュー					工 夫 そ の 他 の	リアクションペーパー										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	模擬講義の準備(30h)																
	事後学修	模擬講義の振り返り(5h)																
教科書	使用しない。参考資料等を適宜配付する。																	
参考書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。 TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 渡部裕恒ほか(2023)『検定簿記講義 3級商業簿記(2023年度版)』中央経済社。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業準備の取り組み	40%																
	模擬講義	50%																
	ピアレビュー	10%																
注意事項	1.9月下旬(後期履修ガイダンス予定日)に事前ガイダンスを実施する。履修を検討している学生は必ず出席すること。 2.以下の履修制限を設ける(詳細はガイダンスで説明する)。																	
備考	本講義は、模擬講義によるティーチングを通じ、指導する側の立場から基礎的な簿記能力の向上を目指す双方向型の科目である。「初級簿記」や「中級簿記」の単位認定を受けた1年生や、教員免許(商業)の取得を目指す学生に積極的に履修してもらいたい。																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M423	実践経営分析論 (Applied Management Analytics)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経済	後期集中	水4	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (問い合わせはメールをお願いします)									
授業の概要	大分県の観光産業の発展に向け、首都圏等及び海外からの個人旅行者及び若年層旅行者の増加が課題になっている。本講義は、大分県・ジェットスタージャパン(JJP)・本学の3者連携協定にもとづき、専門科目(交通論、経済政策、産業組織論、マーケティング論など)を履修した学生が、当該課題の解決のための方策について研究・分析・発表を行うことで、地域課題の解決力育成をはかることを狙いとする。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	専門科目で修得した知識を、実際の地域課題の実践的な分析に発展できるようになる。														
目標2	実践的・社会実装的な視野を身に付け課題解決能力を育成し、キャリア形成に役立てる。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	オリエンテーション														
2	JJPによる講義(ジェットスタージャパンについて~各セクションの仕事や事業概要全般)														
3	JJPによる講義(就航地域との取組やマーケティング活動についてや若年層マーケティング策など)														
4	大分県による講義(大分県の交通戦略)														
5	大分県による講義(大分県の観光戦略)														
6	県内自治体・観光関係者による講義(県内自治体の観光政策、九州の観光政策)														
7	ワークショップ・フィールドワーク準備 これ以降、隔週等での開講になることがある														
8	ワークショップ・フィールドワーク準備														
9	フィールドワーク(観光地視察、ヒアリング、情報収集) 学外で実施														
10	フィールドワーク(観光地視察、ヒアリング、情報収集) 学外で実施														
11	ワークショップ(報告・提案に向けたテーマと方向性の決定)														
12	ワークショップ(報告・提案の準備)														
13	ワークショップ(報告・提案のとりまとめ)														
14	最終報告会の予行演習														
15	最終報告会(プレゼンテーション) 学外で実施。2月試験期の後を予定。														
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の講義、ワークショップ、フィールドワークにおいて、シャトルカードの提出を求め、それに必要に応じてコメントを返すことで振り返りを促す。	工 夫 そ の 他 の	定期的は大分県・JJPとの意見交換を行う機会を設け、進捗の確認と質の高いアウトプットの創出ができるようにしている。											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	関心のある観光情報や、観光・航空政策に関する授業の履修、これらの分野の新聞や雑誌記事などの閲覧が望ましい(30h~45h)。 フィールドワークの準備以降は、各グループでの活動準備などで講義時間外の自主的な学習が求められる(講義時間だけではすべてはできないので)(30h~45h)。													
教科書	特に指定しない。随時必要な資料を配布する。														
参考書	講義中、または初回ガイダンスにおいて配布するコースシラバスで案内する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の議論・意見交換等の内容	50%													
	最終成果報告会での報告内容	50%													
注意事項	集中講義だが履修の便宜上水曜4限で固定して開講する予定。講義内容や順番は今後変わることがありうる。フィールドワークの費用は自己負担が必要である(原則大分県内)。事前説明会を実施する可能性がある(7月末の予定)。定員を最大20人(程度)とし、超過の場合は選考を行うことがある。														
備考	専門科目(交通論、経済政策、マーケティング論、産業組織論など)を履修した学生が望ましいが、履修の有無は要件とはしない。他学部生の履修も認める。講義中、記録と広報のため、写真や動画などを撮影することがありうる。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験がある。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大分県交通政策課、ジェットスタージャパン株式会社との共同授業のため、定期的または不定期で両者（あるいは関係機関等）から講義に参加する。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与、旅行会社勤務経験）を反映した講義を行うとともに、全国初のLCCとの連携講義であり、実践面の理解も深まる内容になっている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M424		上級簿記(Advanced Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3, 4	経	前期集中	他	氏名 望月 信幸 E-mail mochizuki@pu-kumamoto.ac.jp 内線												
授業の概要	この授業では、これまでに学習した簿記の知識をさらに発展させ、高度な簿記の知識を習得することを目的としている。この授業を通じて、日商1級商業簿記の内容の一部を学習するとともに、実際に企業がそれらの会計情報をどのように活用しているのかについて理解することを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	講義で扱う会計処理の手続きができるようになる。																	
目標2	講義で扱う会計処理の意味を説明できるようになる。																	
目標3	企業における会計情報の有効な活用方法を理解する。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	オリエンテーション：簿記・会計に関する基礎知識の確認																	
2	税効果会計：税効果に関する処理について学習																	
3	外貨換算会計：外貨建て取引の会計処理について学習																	
4	デリバティブ取引：デリバティブ取引の会計処理について学習																	
5	固定資産：有形固定資産の取得、売却に関わる会計処理について学習																	
6	固定資産：減損会計、資産除去債務について学習																	
7	リース取引：リース取引に関する会計処理について学習																	
8	企業結合：企業結合に関する会計処理について学習																	
9	連結会計：支配獲得日の会計処理について学習																	
10	連結会計：支配獲得後2年目以降の会計処理について学習																	
11	連結会計：未実現利益の処理について学習																	
12	連結会計：包括利益について学習																	
13	連結会計：連結財務諸表について学習																	
14	連結会計：持分法について学習																	
15	授業のまとめ																	
ラ ブ ニ テ ィ グ	A:知識の定着・確認	実践演習(問題解答)					工 夫 そ の 他 の	企業での活用例示があれば説明										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	簿記や会計学に関する基本的な知識を整理し、理解しておくこと(15h)。																
	事後学修	問題を解くなどにより、学修した単元の会計処理方法とその意味を理解しておくこと(15h)。																
教科書	合格テキスト日商簿記1級商業簿記 および (TAC出版)																	
参考書	講義の中でそのつど紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎授業の提出課題	30%																
	期末試験(または期末課題)	70%																
注意事項	日商2級商業簿記の内容を理解しておくことが望ましい。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K242M417		株式会社簿記(Selected Topics in Intermediate Bookkeeping)				経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 角田 幸太郎 (非常勤講師)									
						E-mail 内線									
<p>簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容を学んでいきます。</p>															
<p>具体的な到達目標</p> <p style="text-align: right;">DP等の対応(別表参照)</p>															
目標1	日商簿記2級商業簿記の個別論点の後半部分に関する記帳を行うことができる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	会計・税法等に関する専門知識とスキルを修得し、論理的に判断することができる。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	リース取引														
3	無形固定資産等と研究開発費														
4	外貨換算会計(1)														
5	外貨換算会計(2)														
6	税金														
7	課税所得の算定と税効果会計(1)														
8	課税所得の算定と税効果会計(2)														
9	株式の発行														
10	剰余金の配当と処分(1)														
11	剰余金の配当と処分(2)														
12	収益・費用の認識基準														
13	合併と事業譲渡														
14	製造業会計														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の宿題				工夫	その他の								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(7h)。													
	事後	宿題を解く(7h)。小テストや期末試験に向けた学習をする(14h)。													
教科書	TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版(税別2,400円)。 TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版(税別1,800円)。														
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『2023年度版 日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(2023年3月発売) TAC簿記検定講座(2023)『ネット試験と第164(165、166)回をあてるTAC予想模試+解き方テキスト 日商簿記2級』(2023年3月(8月、12月)発売)														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の授業開始時に行う小テスト	30%													
	期末試験	70%													
注意事項	電卓を必ず持参すること。毎回宿題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。														
備考	この講義は「南九州税理士会寄附講義」として、その支援、協力により開講します。日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。なお、2016年度以前に「簿記III」の単位を修得した人や、2017年度に「上級簿記」														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K232M301	経営学 (Management I)					経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経	前期	木2	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709											
授業の概要	本授業のねらいは、経営学の主要な理論を幅広く学ぶことにある。経営学は他の社会科学（主に経済学、社会学、心理学）の知見を応用することを通じて発展してきた。それゆえ、経営学には多種多様な理論が存在する。そこで本授業では経営学の主要理論を経済学ベース、社会学ベース、心理学ベースに分類し、それぞれの理論的枠組みについて理解を深めていく。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	今日の経営学における主要な理論的枠組みを理解し、説明できるようになること																
目標2	学習した理論的枠組みを用いて、企業経営に関する現象を客観的に分析できるようになること																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	経営学の特徴																
3	経済学ベースの経営理論(1)競争戦略論の2つのアプローチ																
4	経済学ベースの経営理論(2)エージェンシー理論																
5	経済学ベースの経営理論(3)取引費用経済学																
6	経済学ベースの経営理論(4)リアル・オプション理論																
7	心理学ベースの経営理論(1)企業行動理論																
8	心理学ベースの経営理論(2)組織学習理論																
9	心理学ベースの経営理論(3)リーダーシップの理論																
10	心理学ベースの経営理論(4)モチベーションの理論																
11	社会学ベースの経営理論(1)弱い紐帯の強みの理論																
12	社会学ベースの経営理論(2)構造的空隙理論																
13	社会学ベースの経営理論(3)制度理論																
14	社会学ベースの経営理論(4)資源依存理論																
15	本授業のまとめ																
ラック ニ ン イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	受講者が各授業の要約、質問、感想をミニツペーパーに記入し、次回授業で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	配布資料で適宜紹介する文献を予習する(15h)。 配布資料ならびに適宜紹介する文献の復習(15h)、レポート課題(20h)。															
教科書	以下の教科書を基に作成した講義レジュメを各授業で配布する。 ・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。																
参考書	参考書は授業中に適宜指定する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	ミニツペーパー	60%															
	レポート課題(5千字程度)	40%															
注意事項	・ミニツペーパーは単に提出すればよいというわけではない。記述内容によっては、欠席扱いとする。 ・私語等、授業の進行を妨げる行為に対して厳正に対処する。																
備考	後期に続けて「経営学」を受講することで、経営学の理解が深まる。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	ITコンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	経営学の諸学説の理解を促進するために、事例や実務の実態を適宜紹介しながら講義を進める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K242M401	経営学 (Management II)					経営システム学科 経営システム学科	対面													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名 加納 拓和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709														
授業の概要	本授業では、「経営学」で学習した理論的枠組みを用いて、近年注目されている主要な経営現象（イノベーション、ダイバーシティ等）に多角的にアプローチする。そのことを通じて、経営学の主要な理論や分析対象について理解を深めるだけでなく、現象を客観的かつ多角的に考察する力を培っていく。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経営学の主要な理論的枠組みとその分析対象を理解し、説明できるようになること																			
目標2	学習した理論的枠組みを用いて、自ら経営現象を客観的、多角的に分析できるようになること																			
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンス																			
2	経済学ベースの経営理論																			
3	心理学ベースの経営理論																			
4	社会学ベースの経営理論																			
5	イノベーション(1)																			
6	イノベーション(2)																			
7	ダイバーシティ(1)																			
8	ダイバーシティ(2)																			
9	グローバル経営(1)																			
10	グローバル経営(2)																			
11	コーポレート・ガバナンス(1)																			
12	コーポレート・ガバナンス(2)																			
13	アントレプレナーシップ(1)																			
14	アントレプレナーシップ(2)																			
15	本授業のまとめ																			
ラック ニテン ゲブ	A:知識の定着・確認	受講者が各授業の要約、質問、感想をミニッツペーパーに記入し、次回授業で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。														工 夫 そ の 他 の				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備学修	配布資料で適宜紹介する文献を予習する(15h)。																		
	事後学修	配布資料ならびに適宜紹介する文献の復習(15h)、レポート課題(20h)。																		
教科書	教科書は指定しない。以下の参考書を基に作成した講義レジュメを各授業で作成・配布する。																			
参考書	・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。 ・その他の参考書は授業中に適宜指定する。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	ミニッツペーパー	60%																		
	レポート課題(5千字程度)	40%																		
注意事項	・ミニッツペーパーは単に提出すればよいというわけではない。記述内容によっては、欠席扱いとする。 ・私語等、授業の進行を妨げる行為に対しては、厳正に対処する。																			
備考	本授業は「経営学」を予め受講しておくことで理解が深まる。																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	ITコンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	経営学の諸学説や分析対象に関する理解を促進するために、事例や実務の実態を適宜紹介しながら講義を進める。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K241M401	基礎経営論 (Basic Theory of Management)					経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経済	前期	金2	氏名 藤原 直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675										
授業の概要	経営学をこれから学ぶ諸君を対象に、今後、経営学関係の各論としての専門科目を履修するためのステップとして、企業経営および経営学に対する関心を抱いてもらうことを目的としている。そこで、本講義では、基礎的なケースに即しながら、経営学を学ぶ上で最も基本的と思われる概念や用語を解いてゆくこととする。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	マニュファクチュアに焦点を当て、経営の基礎である、分業および協業・管理の概念を十分に理解すること。															
目標2	および、資本主義経済ならびに企業の原理的な機能を認識すること。															
目標3	そして、上述の諸点を説明することができること。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	本論・近代的企業の登場、経営とは何か。マニュファクチュアの重要性															
2	分業とは何か															
3	分業とは何か															
4	分業とは何か															
5	協業の展開															
6	協業の展開															
7	協業の展開															
8	協業の展開															
9	補論・経済学(マルクス経済学)の基本概念															
10	補論・経済学(マルクス経済学)の基本概念															
11	管理という概念															
12	管理という概念															
13	管理という概念															
14	総括															
15	総括															
ラーニング	A:知識の定着・確認	体系的な理解を心がけてください。				工夫	体系的な講義の展開を行います。									
	B:意見の表現・交換					その										
	C:応用志向					他										
	D:知識の活用・創造					の										
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキスト等の入念な予習が必要です(30h)。														
	事後学修	テキストおよび講義内容の整理・確認が必要です(15h)。														
教科書	アダム・スミス『国富論』第1巻、中公文庫 カール・マルクス『新版 資本論3』(第一巻 第三分冊)、新日本出版社															
参考書	藤原直樹著『『資本論』の経営理論』御茶の水書房 2018年11月															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末定期試験	100%														
注意事項	授業中は真摯な態度で受講してほしい。授業に集中していない学生には、退席を命じる場合もある。															
備考	「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」という方針で講義を進めていきます。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式												
K241M402		基礎経営論 (Basic Theory of Management)				経営システム学科 経営システム学科		対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1,2,3,4	経済	後期	金2	氏名 藤原 直樹 E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675														
授業の概要	経営学をこれから学ぶ諸君を対象に、今後、経営学関係の各論としての専門科目を履修するためのステップとして、企業経営および経営学に対する関心を抱いてもらうことを目的としている。そこで、本講義では、企業経営に関してできるだけ具体的なケースに即しながら、基礎経営論を基礎としつつ、資本家の指揮(管理)の概念および近代から現代へのその展開を講じてゆく。																			
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1 資本家の指揮(管理)の概念と意味を十分に理解すること。																				
目標2 および、近代から現代における資本家の指揮の具体的な展開を認識すること。																				
目標3 そして、上述の諸点を説明することができること。																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 問題の所在、『資本論』の目的と考察方法とは何か。																				
2 『資本論』における独自の指揮概念の展開を理解する。真の問題の所在とは。																				
3 『資本論』における独自の指揮概念の展開を理解する。真の問題の所在とは。																				
4 資本家の指揮(Leitung)の具体的な内容を理解するために、分類のための視点ならびに三つの分類。																				
5 マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c																				
6 マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c																				
7 マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c																				
8 マニュファクチュアで登場した資本家の指揮(Leitung)タイプa.b.c																				
9 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。																				
10 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。																				
11 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。																				
12 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。																				
13 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その1.「機械設備と大工業」：マルクスが見た19世紀の管理。																				
14 資本家の指揮(Leitung)の歴史的な展開、特にタイプcを中心として。その2.『資本論』に基づく指揮論の現代的意義。																				
15 補論.「技術学」(Technologie)とは何か、技術学の現在																				
ラーニング		A:知識の定着・確認				体系的な理解を心がけてください。				工夫		その他の					体系的な講義の展開を行います。			
B:意見の表現・交換																				
C:応用志向																				
D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修				テキスト等の入念な予習が必要です(30h)。														
		事後学修				テキストおよび講義内容の整理・確認が必要です(15h)。														
教科書		カール・マルクス『新版 資本論3』(第一巻 第三分冊)、新日本出版社																		
参考書		藤原直樹著『『資本論』の経営理論』御茶の水書房 2018年11月																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	期末定期試験							100%												
注意事項	基礎経営論を受講した学生の参加が望ましい。また、同を受講した事を前提として本講義を進行してゆく。授業中は真摯な態度で受講してほしい。授業に集中していない学生には、退室を命じる場合もある。																			
備考	「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」という方針で講義を進めてゆきます。																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K242M402		経営史(Business History)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経済	前期	火1	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702										
授業の概要	本授業では、一国の社会経済や産業の発展過程をふまえたうえで、個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と提供、それによる利潤の追求などがいかになされてきたのかを、過去の企業家や経営者、企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に解明していきます。そこで、まず、経営史という学問についてアメリカで生み出された経緯や問題意識などとともに、欧米経営史の概要を把握します。次に、日本の社会経済の発展と日本経営史の概要をふまえたうえで、年代ごとに特徴ある企業や経営システムについて、事例研究も交えながら理解します。最終的には、それらをもとに日本企業の現況とこれからのあり方などについても考えていきます。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経営史という学問を知り、それを学ぶ理由を理解する。															
目標2	企業や経営システムの成り立ちや歴史を知り、多くの知識を修得する。															
目標3	欧米諸国と比べることで、日本の企業や経営システムの独自性や経済発展へのインパクトを理解する。															
目標4	経営史を学ぶことで、企業や経営システムの現状とこれからのあり方について考えられるようになる。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 本授業のねらいと内容および進め方、経営史という学問																
2 欧米経営史の概要																
3 日本経済の発展と日本経営史の概要																
4 江戸時代から第1次世界大戦前までの経営																
5 両大戦間期の経営(1):財閥の多角化と組織、重化学工業化と新興財閥																
6 両大戦間期の経営(2):技術経営の誕生、「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生																
7 両大戦間期の経営(3):都市型ビジネスの成立																
8 第2次世界大戦後(1):経済民主化と企業変革																
9 第2次世界大戦後(2):大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展																
10 第2次世界大戦後(3):企業集団とメインバンク																
11 第2次世界大戦後(4):日本の生産システムの形成																
12 第2次世界大戦後(5):流通のイノベーション																
13 第2次世界大戦後(6):変貌する総合商社																
14 第2次世界大戦後(7):日本の経営とその変容																
15 講義のまとめ、日本企業の現況と今後のあり方について																
ラーニング	A:知識の定着・確認	事例研究,個人ワークなど				工夫	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
	B:意見の表現・交換					その他										
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間)														
	学修	興味ある企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略などについての調査(15時間)														
	事後	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)														
	学修															
教科書	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎、2014年。															
参考書	・佐々木聡編著『グラフィック経営史』新世社、2022年。 ・鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』(有斐閣アルマ)有斐閣、2004年。 ・安部悦生『経営史 第2版』(日経文庫 経営学入門シリーズ)日本経済新聞社、2010年。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験結果	70%														
	授業参加姿勢(課題対応など)	30%														
	上記のことをもとに総合的に評価します。															
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。															
備考																
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M403	企業論(Company and Business)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経済	前期	火3	氏名 河野 憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679						
授業の概要	私たちの生活に深く関わっている企業を理解することは現代社会を生きる上で大切です。授業では担当教員の社会人経験に基づく事例を紹介しながら、企業について、その成立から現代の組織形態、経営の管理体系の基本を解説します。また企業と事業、営利組織と非営利団体といった対比から企業を考察することで、現代社会がかかえる様々な課題を理解して、問題解決にむけた取り組みや方向性についても論じます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	企業の成り立ちや組織形態、機能について基本的な知識が身についている											
目標2	現代社会における企業の役割や社会への影響、また企業が抱える課題について理解し、説明できる。											
目標3	課題解決の一方法としてビジネスプランを策定して説明できる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション 企業の現状と課題											
2	企業組織の諸形態											
3	企業の発生と発達											
4	企業と事業											
5	ケーススタディ1(町家旅館)											
6	企業における金融市場(ファイナンス)											
7	企業における労働市場(人的資源管理)											
8	企業における製品・サービス1(経営戦略)											
9	企業における製品・サービス2(マーケティング)											
10	ケーススタディ2(チェック・トランケーション)											
11	企業倫理											
12	コーポレート・ガバナンス											
13	スモールビジネス											
14	非営利組織への展開～病院経営、NPO											
15	プレゼンと総括											
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習や個人ワーク、発表の場などを設けて、学んだ知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。				工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの作成、提出を求めます。 コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学ぶ機会を設けます。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間) 講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)										
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使ってすすめます。											
参考書	佐護善編著(1995)『経営学要論』泉文堂 斎藤・蘆谷・相原編(2004)『経営学のフロンティア』学文社 加護野・吉村編(2012)『1からの経営学 第2版』中央経済社											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点	20%										
	レポート	40%										
	期末試験	40%										
注意事項	授業中に意見を求めることがあります。 予習・復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。											
備考												
リンク	個人ホームページ URL https://kenjikouno.jimdo.com/											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな動向に金融サービスの観点を加えて、企業の本質を多面的に解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M401	企業組織法 (Law of Enterprise Organization I)					経営システム学科 経営システム学科									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経	前期	火1	氏名 金 康浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717									
授業の概要	会社法上の会社の種類および会社法の目的について解説した後に、株主および取締役をめぐる規制に重点をおいて解説します。講義では会社法が適用された実際の判例、および、各制度の趣旨を理解するのに必要な重要な学説についても解説します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	会社法が対象としている会社を挙げることができる。														
目標2	講義で扱った制度の概要および趣旨を、条文を挙げて説明することができる。														
目標3	講義で扱った制度と関連する判例の概要を説明することができる。														
目標4	学説上解釈が分かれている点について、解釈の違いが生じている理由および各学説の内容を説明することができる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	会社法総論														
2	会社の設立														
3	株式と株主														
4	株式の譲渡および株主の権利行使の方法														
5	特殊な株式保有の形態および投資単位の調整														
6	株式会社の機関および株主総会														
7	株主総会決議を争う訴え														
8	取締役および取締役会														
9	取締役と会社との関係(1)														
10	取締役と会社との関係(2)														
11	取締役の責任(1)														
12	取締役の責任(2)														
13	株主代表訴訟および差止め														
14	監査役、監査役会および会計監査人														
15	指名委員会等設置会社および監査等委員会設置会社														
ラーニング	A:知識の定着・確認	会社法が適用される場面を具体的にイメージすることができるように、実際の判例にも言及して制度の内容を説明します。					工	その							
	B:意見の表現・交換						夫	他							
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	該当箇所の教科書を読み、授業の内容の概要をつかんでください(20h)。													
	事後	六法を確認しながら教科書を読んで、授業の内容に対する理解を深めてください(30h)。													
教科書	高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)														
参考書	岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	80%													
	平常点	20%													
注意事項	講義中に条文を参照するので、小型の六法を必ず持参してください。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K243M402	企業組織法 (Law of Enterprise Organization II)					経営システム学科 経営システム学科														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経	後期	火1	氏名 金 康浩 E-mail kimkangho@oita-u.ac.jp 内線 7717														
授業の概要	会社法が規律している制度のうち、計算、資金調達および組織再編を中心として解説します。 講義では、会社法が適用された実際の判例、および、各制度の趣旨を理解するのに必要な重要な学説についても解説します。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	講義で扱った制度の概要および趣旨を、条文を挙げて説明することができる。																			
目標2	講義で扱った制度と関連する判例の概要を説明することができる。																			
目標3	学説上解釈が分かれている点について、解釈の違いが生じている理由および各学説の内容を説明することができる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	会計および開示																			
2	剰余金の配当および資本制度(1)																			
3	剰余金の配当および資本制度(2)																			
4	募集株式の発行等(1)																			
5	募集株式の発行等(2)																			
6	新株予約権および社債																			
7	企業買収																			
8	組織再編(1)																			
9	組織再編(2)																			
10	組織再編(3)																			
11	組織再編(4)																			
12	事業の譲渡等																			
13	敵対的買収および防衛策																			
14	会社の解散、清算および倒産																			
15	持分会社および国際会社法																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	会社法が適用される場面を具体的にイメージすることができるように、実際の判例に言及して制度の内容を説明します。											工夫	その他						
ニテ	B:意見の表現・交換																			
ンイ	C:応用志向																			
グ	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	該当箇所の教科書を読み、授業の内容の概要をつかんでください(20h)。																		
	事後学修	六法を確認しながら教科書を読んで、授業の内容に対する理解を深めてください(30h)。																		
教科書	高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)																			
参考書	岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末試験	80%																		
	平常点	20%																		
注意事項	講義中に条文を参照するので、小型の六法を必ず持参してください。																			
備考	講義は企業組織法を受講していることを前提に進みます。																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M404	経営情報論 (Analysis of Business Model using ICT I)					経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経	前期	火2	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668										
授業の概要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー(循環型経済)をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。															
目標2	企業事例の分析を通して、事業プロセスのモデル化や顧客価値を生み出す仕組みを論理的に理解し、説明できる。															
目標3	持続可能な発展のための環境負荷軽減につながるデジタルトランスフォーメーションを理解する															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	講義概要とイントロダクション															
2	世界と日本におけるICT市場の動向															
3	持続可能なデジタルトランスフォーメーションとは															
4	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 銀行編 FinTech															
5	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 保険会社編 InsureTech															
6	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション クラウドファウンディング															
7	中間試験															
8	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション オムニチャネル化 リアル店舗とネット事業の融合															
9	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション デザインマーケティング															
10	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション メタパース活用でなにが変わるか															
11	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション 製造業のサービス化															
12	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション モノの所有から利用で変わるビジネスモデル															
13	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション サーキュラーエコノミー型モデル															
14	ブロックチェーン技術とNFT もしくは テレワークが変わるオフィス															
15	まとめ															
ラ ア ク ニ テ イ グ	A:知識の定着・確認	ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するICTを活用したビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。				工 夫 そ の 他 の	最新の事例を紹介しますので、講義では理解しやすいように図表を使用したり、また事例紹介のためのストーリーミング映像を時々使用します。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備	経済や企業経営に関するニュースに日頃から目を通しておきましょう。														
	学修	配布した資料や参考URLにアクセスして目を通しておく(15h)														
	事後	印刷して配布した資料やMoodleにアップされた資料、講義中にとったノートで毎回復習をして														
	学修	授業中に提示した課題を解く(15h)、講義中の小テストの誤答箇所について、正解を確認し、ノートに整理する(15h)														
教科書	講義資料はMoodle にアップロードするものと印刷して配布するものがあります。															
参考書	参考資料や記事はMoodleにアップロードします。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	講義中のミニレポート	10%														
	中間試験	40%														
	最終試験	50%														
注意事項	遅刻や欠席を極力しないようにして、周りの学生の迷惑にならないようにしてください。第一回目は10分程度オリエンテーションを行い、講義にはいります。															
備考	第1回目の講義に必ず出席してください。2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。教室講義の時でもオンライン講義の時でも開始時間に遅れないようにしてください。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M405	経営情報論 (Analysis of Business Model using ICT II)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	後期	火3	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668						
授業の概要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー(循環型経済)をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	専門用語の意味や原理を理解・説明できる。											
目標2	ICTを活用した事業の原理や顧客提供価値について理解し、自分でも説明ができる											
目標3	持続可能な環境負荷軽減に寄与する仕組みへの理解を深める											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	講義概要とイントロダクション											
2	ショールーミング1 ネット企業のリアル店舗展開											
3	ショールーミング2 売らない店舗とは?)											
4	ゲストスピーカーの日											
5	SNSを活用した広告とマーケティング 1											
6	SNSを活用した広告とマーケティング 2											
7	SNSを活用したブランド構築 デザイナーダイレクトマーケティング											
8	中間試験											
9	シェアリングサービス1											
10	シェアリングサービス2											
11	サブスクリプションサービス1											
12	サブスクリプションサービス2											
13	働き方改革とICT 利活用 新たに求められる働き方とオフィス機能											
14	地域創成とICT利活用 スマートシティとは											
15	まとめ											
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。				工 夫 そ の 他 の	講義では理解しやすいように図表を使いまた事例紹介のためのストリーミング映像を使用します。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 配布した資料に講義の前に目を通しておく(15h) 事後学修 講義の資料を見直して復習し、授業中に提示した課題を解く(15h) 小テストの誤答箇所について、正解を確認し、ノートに整理する(15h)											
教科書	必要な資料は適宜印刷して配布したりMoodleにuploadします。											
参考書	講義中に適宜指示します。事例紹介動画を講義中に適宜指示します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	中間試験	30%										
	最終試験	60%										
	講義中のミニッツペーパー	10%										
注意事項	事例は、その時々において話題性のあるものを取り扱い、新聞、雑誌から印刷して配付します。ストリーミング映像を使用することもあります。											
備考	2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。遅刻や欠席をしないようにしましょう。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M406		経営組織論(Organization Management)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経	前期	金2	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707										
授業の概要	経営組織論についての専門的知識や理論のうち、基礎となる部分の習得がねらいです。私たちに大きな影響を与えている企業組織のあり方について学び、経済社会への理解を深めるためです。企業組織とは何か、組織がなぜ必要とされるのか、どのようにして判断し行動しているのか、組織と人の関わりはどのようなものか、などについて考える手立てとなる知識と理論を学びます。そして、最終的にはそれらを活用して企業組織を分析できるようになることをめざします。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経営組織論についての専門的知識や理論を身につける。																
目標2 企業組織のしくみを理解することができる。																
目標3 企業を経営組織の視点から捉えることができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス、学修の対象と範囲																
2 組織について学ぶこと																
3 組織の概念																
4 組織に関わる理論とその変遷																
5 組織の均衡																
6 組織の構造とデザイン																
7 合理性と官僚制																
8 社会化と組織文化																
9 前半の復習																
10 意思決定																
11 組織と環境																
12 組織における個人・集団																
13 リーダーとフォロワー																
14 コンフリクト																
15 組織と社会の課題																
ラーニング	A:知識の定着・確認	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を課します。				工夫	その他の									
ラーニング	B:意見の表現・交換															
ラーニング	C:応用志向															
ラーニング	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備	新聞を読み、企業や社会の動きを知るようにしましょう。														
	学修	moodleにアクセスして授業前の課題に取り組みましょう。初回に提示するテキスト等も参考にしてください。(15h)														
	事後	授業内容を再度確認し、整理しましょう。(15h)														
	学修	moodleにアクセスして復習用の課題に取り組みましょう。(15h)														
教科書	講義中に常に用いるテキストはありません。授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。															
参考書	各回の講義中に関連する文献を提示します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題の提出	50%														
	期末試験	50%														
注意事項	・後期に開講予定の組織革新論を受講する前にぜひこちらを先に受講してください。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。															
備考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。															
リンク																
	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K243M403	マーケティング論(Marketing)					経営システム学科 経営システム学科														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経済	前期	月3	氏名 松隈 久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680														
授業の概要	現代企業のマーケティングを理解すること。特に、消費者行動を理解し、企業の製品開発、価格設定を検討する。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	マーケティングの4Pを説明できること。																			
目標2	消費者行動、新製品開発、価格設定を説明できること。																			
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	マーケティング概念																			
2	消費者の行動																			
3	購買意思決定の影響要因																			
4	マーケティング戦略の策定(1)																			
5	マーケティング戦略の策定(2)																			
6	製品政策(1)																			
7	製品政策(2)																			
8	価格政策																			
9	プロモーション政策																			
10	流通政策																			
11	マーケティング・ミックスの統合																			
12	戦略的マーケティング																			
13	市場資源のマーケティング																			
14	事例研究																			
15	まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	テーマに関連する企業のマーケティングを示すので、比較研究してほしい。それにより具体的なマーケティング行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。										工夫	その他							
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間																		
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。20時間																		
教科書	初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。毎回、テキストからクイズを出す予定です。																			
参考書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	レポート(クイズを含む)	50%																		
	試験	50%																		
	新型コロナ対策のために、遠隔授業にすることがあります。その場合は、初回の授業時にお知らせします。また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。																			
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。毎回、テキストからクイズを出す予定です。出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。																			
備考	応用科目ゆえ、2年生でも履修できますが、3年生以上の選択が適切です。新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。																			
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M406		産業・組織心理学 (Industrial and Organizational Psychology)					経営システム学科 経営システム学科	オンライン(オンデマンド型)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3,4	経	前期集中	他	氏名 田原 直美 E-mail naomi@seinan-gu.ac.jp 内線												
授業の概要	本講義では、職場や組織における人間行動について、個人や集団の心理的特性を理解することを目標とする。産業・組織心理学の基本的なトピックに加え、現代の組織状況において特に注目されているトピック(心理的安全性、ワークライフバランス、キャリア発達など)についてもとりあげる。来るべきワーク・ライフについて想像を膨らませながら、講義で扱った理論や考え方を十分に理解することはもちろん、学習したことを自身の体験や社会の出来事を捉える際に活用できるようになることを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	職場や組織における人間行動を、個人レベルと集団(組織)レベルから心理学的視点でとらえられるようになる。																	
目標2	職場や組織における個人の行動や心理について基礎的な理論を説明できるようになる。																	
目標3	職場や組織における、集団やチームの特性について基礎的な理論を説明できるようになる。																	
目標4	組織における安全とエラーについて、基礎的な理論を説明できるようになる																	
目標5	職場や組織における人間行動について、具体的な現象を説明する際に、産業組織心理学の知識を応用することができるようになる																	
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	産業組織心理学の歴史とテーマ																	
2	ワーク・モチベーション(1)モチベーションの意味、内容理論																	
3	ワーク・モチベーション(2)過程理論、職務満足感、組織コミットメント																	
4	キャリア発達・ミニレポート																	
5	人的資源管理																	
6	職場におけるストレスとメンタルヘルス																	
7	リーダーシップ(1)リーダーシップの基本的な理論																	
8	リーダーシップ(2)近年注目されているリーダーシップ論・ミニレポート																	
9	職場集団のダイナミクス																	
10	チーム・コミュニケーション																	
11	職場のコミュニケーションと人間関係(1) 集団の意思決定																	
12	職場のコミュニケーションと人間関係(2) 職場における葛藤・ミニレポート																	
13	組織の安全とヒューマンエラー(1) ヒューマンエラー																	
14	組織の安全とヒューマンエラー(2) チームエラーと組織事故																	
15	まとめ・ミニレポート																	
ラ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー の 目 的	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業毎にリアクションペーパーを提出し、フィードバックを行う。 簡単な実験やDVD視聴などを行い、それについてグループでのディスカッションを行う。					工 夫 そ の 他 の	講義で使用する資料等はすべて Moodle に公開し自主学習を促進する。										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	あらかじめ資料と教科書の該当箇所を示すので、よく読み予習しておく(18h)。																
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した心理学的知識を実際の生活場面でとらえる(14h)。																
教科書	柳澤さおり・田原直美(編著)『はじめて学ぶ産業・組織心理学』白桃書房																	
参考書	講義中に適宜紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	リアクションペーパー	20%																
	講義中のミニレポート	60%																
	最終レポート	20%																
	リアクションペーパー、ミニレポート、及び最終レポートそれぞれについて、60%以上の得点であることを単位認定の条件とする。																	
注意事項																		
備考																		
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
K243M407	産業・組織心理学 (Industrial and Organizational Psychology)					経営システム学科 経営システム学科															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	3,4	経済	後期集中	他	氏名 吉山 尚裕 (非常勤講師) E-mail yoshiya@oita-pjc.ac.jp 内線															
授業の概要	この授業の目的は、組織活動に役立つような心理学的知識を学び、仕事を進める実践力を養うことです。皆さんは、将来、企業や官公庁、各種団体、NPOなどの運営に参加することでしょう。「産業・組織心理学」では、働く人間や職場の人間関係に関する心理学的知識の確認しながら、そうした知識をマネジメント(経営管理)に活用することに重点を置きます。具体的には、モチベーション、グループ・ダイナミックス、リーダーシップ、意思決定などを取りあげ、実践と関連付けながら理解を深めます。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	ワークモチベーションやジョブデザインに関する主要理論を説明できる。																				
目標2	職場の人間関係や職場集団の特質、発生しやすい問題について説明できる。																				
目標3	リーダーシップを効果的に発揮するためのポイントや留意点を説明できる。																				
目標4	個人や集団の意思決定で陥りがちな心理学的な落とし穴を説明できる。																				
目標5	コーチングの進め方を学び、ロールプレイ(役割演技)で実践できる。																				
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	産業・組織心理学の歴史と領域																				
2	組織とは何か? : 事例研究1																				
3	科学的管理法から人間関係論、そして行動科学へ																				
4	ワークモチベーションの主要理論																				
5	ジョブデザインとキャリア開発																				
6	グループ・ダイナミックス																				
7	集団の規範と凝集性、チームワーク																				
8	組織におけるコミュニケーション: 事例研究2																				
9	職場の健康診断(モラルとリーダーシップの診断)																				
10	リーダーシップの理論とその活用																				
11	リーダーシップとコーチング																				
12	組織の意思決定																				
13	個人の意思決定の落とし穴																				
14	集団の意思決定の落とし穴																				
15	授業全体のまとめ																				
ラック	A:知識の定着・確認	・「事例研究」(2回)では、職場で起こる問題の原因と対応策を考えてもらい、問題解決の実践力を養います。										工 夫 そ の 他 の	・Moodleにパワーポイントの配布資料を掲載します。								
ニ	B:意見の表現・交換	・「コーチング」では、ロールプレイ(役割演技)による後輩指導の実習も行う予定です。ただし、授業の進度によっては解説のみとします。																			
ン	C:応用志向																				
グ	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	パワーポイントの配布資料(pdf)や参考書を使って予習する(15h)。																			
	事後学修	専門用語や理論(考え方)を確認するとともに、組織の活動や運営にどのように活用できるかを考察してください(15h)。																			
教科書	使用しません。パワーポイントの配布資料(pdf)や紙資料(シート)を使います。																				
参考書	田中堅一郎(編)『産業・組織心理学エッセンシャルズ』(第4版) ナカニシヤ出版 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著)『産業・組織心理学』 有斐閣アルマ																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	筆記試験(穴埋め問題・用語説明・論述問題)・筆記試験では、資料等の持ち込み不可。	60%																			
	授業への取組(毎日1回は提出してもらおうミニレポートの評価を含む)	40%																			
注意事項	・講義形式の授業ですが、質問しながら進めるので応答してください。受講生の人数によっては、座席指定を行います。 ・前期の「産業・組織心理学」を履修していない学生も、「」の履修は可能です。																				
備考																					
リンク	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	企業における各種調査の実施・分析・報告。企業・官公庁のリーダーシップ研修の講師も多数経験している。
実務経験を いかした教 育内容	職場の健康診断（モラルとリーダーシップの分析）、コーチング実習

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K242M408	経営戦略論(Management Strategies)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	金3	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714									
授業の概要	企業を取り巻く環境の変化が激しい今日、企業が進むべき基本的方向を示す経営戦略の重要性はますます高まっています。本講義では、経営戦略の概念、経営戦略の策定のあり方、経営戦略のとらえ方、を経営戦略論で提示されている代表的なフレームワークを学ぶことで理解することをねらいとします。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業の経営戦略に関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。														
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	経営戦略の概念														
3	経営戦略論の展開														
4	ドメインの定義														
5	ドメインの定義														
6	ドメインの再定義														
7	経営資源														
8	経営資源														
9	PPM														
10	PPM														
11	ポジショニング戦略論														
12	ポジショニング戦略論														
13	資源ベース戦略論														
14	資源ベース戦略論														
15	プロセス型戦略論														
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。										工 夫 そ の 他 の			
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h、計15h)。													
	事後 学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h、計30h)。													
教科書	大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。														
参考書	周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学1』実教出版。他にも適宜紹介します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	90%													
	小レポート	10%													
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書いていないことも講義します。 レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。 														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
K243M408		人事システム論 (Personnel Management I)					経営システム学科 経営システム学科	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経済	前期	金4	氏名 碓 邦生 E-mail kunioik2@oita-u.ac.jp 内線 7711									
授業概要	本講義では、他社とともに働く、協業するために必要なマネジメントの知識及びスキルを実践と組み合わせることを目的とします。現代のビジネス環境では、プロジェクト単位での仕事が増え、個人の優れた能力や業績よりも、チームや集団単位での業績やチームへの貢献が重視されています。反対に、個人の働きで完結するような、工場のライン工やルート営業、販売員などの仕事に対する組織内での重要度が低下しています。この傾向は、今後、更に強まると予測されています。個人の働きだけで完結する仕事は、AIやロボットなどのテクノロジーで代替しやすく、必ずしも人がやる必要がないためです。そのため、本講義では、スマホアプリ「Minecraft」を活用して、プロジェクト単位でのグループ課題をクリアし、他人と協力して仕事をしていくソフトスキルの取得を目指します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	実践的なワークと理論の学習を通して、協業に必要なコミュニケーションやプロジェクト・マネジメントのスキルを学ぶ														
目標2	チームや集団における人のマネジメントについて、基礎的な理論や専門用語の意味を理解・説明できる														
目標3	プロジェクト・マネジメントの仕組みや変遷を理解する														
目標4	人のマネジメントにかかわる諸問題に対して、どのような人材マネジメントの理論が役に立つのか、理解する														
目標5	他者との協業について、人的資源管理の理論と共に理解することで、問題解決のメカニズムを理解する														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクションとグループ分け														
2	ステージ1：プロジェクトのゴールを決める (Chapter 1)														
3	ステージ1：ゴールを達成するためのアイデア探索 (Chapter 2)														
4	ステージ2：計画立案と仕事の割り振り (Chapter 7)														
5	ステージ3：進捗管理とコントロールの利かせ方 (Chapter 13)														
6	ステージ3：プロジェクト内でのコミュニケーション (Chapter 14)														
7	中間発表：エクササイズ1														
8	エクササイズ1のリフレクション 及び チームビルディング														
9	アドバンスド1：最終発表に向けたゴール設定 と 設定されたゴールの意義を考える (Chapter 1)														
10	アドバンスド1：ゴールを達成するためのアイデア探索 (Chapter 2)														
11	アドバンスド2：役割分担とチームビルディング (Chapter 8)														
12	アドバンスド3：最高のパフォーマンスを維持させる (Chapter 15)														
13	アドバンスド4：新たなツールを使うことの重要性 (Chapter 17)														
14	アドバンスド4：プロジェクトのコストをコントロールする (Chapter 18)														
15	最終発表：エクササイズ2														
ラック ニ ン イ グ	A:知識の定着・確認	・ゲームソフト「Minecraft」(スマホ・PC・コンシューマー機どれも可)を活用した、プロジェクト・マネジメントの実践学習				工 夫	そ の 他 の								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	各回のプレゼン準備 (30時間)													
	事後 学修	フィードバックへの対応 (15時間)													
教科書	基本的には、講義中に配布する資料に沿って実施します。 講義で、教科書の代わりに『Minecraft』を購入してもらいます。使用するプラットフォームによって値段は変わりますが、おおむね1000円～4000円程度です。														
参考書	・Portny, S. E. (2017). Project management for dummies. John Wiley & Sons. 大学院への進学を志す場合は、下記テキストを読み込むようにしてください。 ・上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2010年。														
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	最終発表	15%													
	中間発表	10%													
	各回での課題提出 (各回5点)	55%													
	期末レポート	20%													
	中間と最終発表の質に応じて、割合以上の加点があります。														
注意事項	・私語や講義途中での入退は、他の出席者の迷惑になるので慎むようにしてください。警告されても改善されない場合は、欠席扱いとします。 ・講義開始から15分経過した後は、原則として、遅刻者の入室は認めません。														
備考	・ノートPC (もしくはタブレットPC) を持っている場合には、必ず持参するようにしてください。 ・グループワーク主体の講義となります。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	グローバル税理士法人における人事業務経験および民間シンクタンクにおける人事領域の研究員
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
実務経験を いかした教 育内容	企業人事との実務経験を活かした事例紹介

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
K243M409		人事システム論 (Personnel Management II)					経営システム学科 経営システム学科	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経済	後期	金4	氏名 碓 邦生 E-mail kunioik2@oita-u.ac.jp 内線 7711									
授業の概要	本講義では、『組織で生き活きと働くにはどうすべきか?』をテーマとして、組織における人材マネジメントの理論について学びます。異なる価値観を持ったメンバーと協業する上で、重要な思考や行動など、組織で働くときに行動様式や仕事に対する考え方が仕事の成果に影響を及ぼします。どのような行動様式や仕事に対する考え方が、人材マネジメントの領域で研究がなされてきたのかについて、体系的に学習します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	組織行動について、基礎的な理論や専門用語の意味を理解・説明できる。														
目標2	組織行動の基礎的な理論を理解することで、昨今の企業組織における、人のマネジメントに関する問題を理解する。														
目標3	組織行動にかかわる諸問題に対して、どのような人事システムの機能によって解決してきたのか、理解する。														
目標4	上記1~3を学習することで、組織行動論について、リアリティのある知識を身に着ける。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクション														
2	モチベーション論														
3	組織コミットメント														
4	キャリア・マネジメント														
5	組織市民行動														
6	組織ストレス														
7	チーム・マネジメント														
8	戦略人事の4つの役割														
9	リーダーシップI														
10	リーダーシップII														
11	組織文化														
12	組織変革														
13	組織的公正														
14	ダイバーシティ・マネジメント														
15	組織におけるフィードバック														
ラック ニ ン イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・講義の開始時に、事前に読み込んできたテキストの内容について、重要だと思ったポイントや、なぜ重要だともったのかについて、グループやペアによる話し合いや意見交換をしてもらいます。 ・授業の最後に、振り返りや質問などのコメントを記入してもらいま				工夫 その 他の	講義内容に対して自分なりの問題意識を持ってもらうために、グループでのプレゼンテーション(5分程度)を各回冒頭で行っていただきます。								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	講義内容と関連した動画を視聴し、レポートを作成する(30時間)													
	事後 学修	授業内容を復習する(15時間)													
教科書	講義資料をオンライン上にアップするため、講義前にダウンロードしてください。印刷するかどうかは自己判断に任せます。														
参考書	開本 浩矢(編),(2014),『入門 組織行動論』,中央経済社 金井壽宏 & 高橋潔,(2004),『組織行動の考え方』,東洋経済新報社 ダグラス・ストーン,シラ・ヒーン,花塚恵(訳),(2016)『ハーバードあなたを成長させるフィードバックの授業』,東洋経済新報社														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	学期末レポート	40%													
	事前課題の提出	60%													
注意事項	・私語や講義途中での入退出は、他の出席者の迷惑になるので慎むようにしてください。警告されても改善されない場合は、欠席扱いとします。 ・講義開始から15分経過した後は、原則として、遅刻者の入室は認めません。														
備考	・テクノロジーを活用しようという姿勢を歓迎するため、ノートPCやタブレットPC等の使用を許可します。														
リンク															
	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	グローバル税理士法人における人事業務経験および民間シンクタンクにおける人事領域の研究者
実務経験を いかした教 育内容	企業人事との実務経験を活かした事例紹介

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 日本型経営と持続可能な発展(Japanese Management and Sustainable Development)					区分・【新主題】/(分野) 経営システム学科 経営システム学科		授業形式 対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択		1・2・3・4	教・医・理工 ・福	後期	金3	氏名 碓 邦生(経) E-mail 内線													
授業の概要	The purpose of this course is to learn basic knowledges on traditional and cultural uniqueness of Japanese corporations.																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Understanding historical and social background of Japanese corporations																		
目標2	Learning typical working styles and careers of Japanese employees																		
目標3	Appreciating current trends of globalizing Japanese business																		
目標4	Improving the strategic thinking and planning skills through making presentations																		
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	Introduction																		
2	Positioning Japan for the twenty-first century																		
3	The challenge to Japan's economy in an evolving world																		
4	Challenges facing Japan's science and technology																		
5	Cool Japan and the struggle with globalization																		
6	Entrepreneurship in Japan																		
7	Group exercise: Make groups and choose industrial sectors																		
8	Group exercise: International comparisons of countermeasures against social crisis																		
9	Group Presentation																		
10	Disparity Problem between Tokyo and Local cities																		
11	Entrepreneurship in Japanese local cities																		
12	Economics in Kyushu																		
13	Economics in Oita																		
14	Tourism sector in Oita																		
15	Necessarily of social entrepreneurship in Oita																		
ラ ア ク ニ ン イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	This course basically follows a textbook, but all students have to deliver a presentation about a case of Japanese overseas business such as Toyota's global strategic automobiles and Rakuten's global hiring.					工 夫 そ の 他 の	The final presentation is the collaboration with a local company at Oita. Students make a global marketing strategy for expanding their business.											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Read a reacquired chapter at a textbook (Total: 20 hours)																	
	事後学修	Research a business case related to the previous lecture (Total: 15 hours)																	
教科書	Mouer, Ross. (Eds.). (2015). Globalizing Japan: Striving to Engage the World, Australia: Transpacific press.																		
参考書	Abegglen, J. C., & Stalk, G. (1985). Kaisha Japanese Corporation. Basic Books. Jacoby, S. M. (2007). The Embedded Corporation: Corporate Governance and Employment Relations in Japan and the United States. Princeton University Press.																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	Participate to discussion	20%																	
	Short presentation	20%																	
	Final Report	60%																	
注意事項	All students have to attend over 70 % of this course.																		
備考																			
リンク	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	Working experience at both Japanese and Western corporations

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K242M409		企業ファイナンス論(Corporate Finance)				経営システム学科 経営システム学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経済	前期	月3	氏名 鶴崎 清貴 (非常勤講師) E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線											
授業「企業ファイナンス論」では、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、その基礎とは「評価」を意味します。「評価」とは、経営者あるプロジェクトを実行するののか、買収するののかを、いかに決定するか、ということです。この決定を行うために、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な3つの問題を考察します。資本予算(Capital Budgeting)とは、あるプロジェクトを実行する際、そのプロジェクトがどのような価値があるののかを検討することです。投資(Investment)とは、投資家がどのようなプロジェクトに投資するののか。また、いかに投資ポートフォリオを選択するかということです。資本構成(Capital Structure)とは、経営者がプロジェクトに対する資金調達をいかにに行い、その資本構成が良いのか否かを考察するものです。これらの基礎を用いて、社会や企業で生じている諸問題を考察します。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業ファイナンスの専門用語を理解することができる。																	
目標2 企業ファイナンスの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。																	
目標3 企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。																	
目標4 企業の社会的責任の重要性を理解できる。																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 イントロダクション																	
2 貨幣の時間価値																	
3 資金調達 株式と社債の評価																	
4 資本予算																	
5 債権の利回り																	
6 債権の利回り																	
7 不確実性とリスク																	
8 中間試験																	
9 リスク回避と資産の収益性																	
10 期待収益率とリスク																	
11 ポートフォリオ理論																	
12 資本資産評価モデル(CAPM)																	
13 資本コストと企業評価																	
14 M&A																	
15 予備日																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義中に時事経緯財および経営問題を提示し、質疑している。またレポートを提出させている。				工夫	その	他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	日経新聞などで、時事経済・経営の問題について事前に学習するよう指導している。															
	事後学修	講義中の問題を解答させている。															
教科書	未定。 毎回ハンドアウトを配布する。																
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall). 市村昭三編『財務管理論』創成社出版,1999年。 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	講義中の発言	20%															
	レポート	10%															
	中間テスト	20%															
	期末テスト	50%															
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。																
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	公認会計士事務所顧問、株式会社非常勤監査役

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K242M411	物流概論(Introduction to Logistics System)					経営システム学科 経営システム学科														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	2,3,4	経	前期	木3	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)														
授業の概要	本講義では、物流(主に国内物流)の現状と、物流の理解に関して必要となる基礎知識について解説します。それにより、受講者が物流の基礎を理解し、この分野への関心を持つきっかけを作り、後期開講の国際物流論受講への前提知識を把握してもらうことが狙いです。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	物流に関する社会事象の背景を理解すること																			
目標2	物流の問題が身近な経済活動に関連していることを理解し、就業先選択の一助となること																			
目標3	物流が関連する社会問題に対して、基礎的な知識を活かして受講生自らの見解を考えることができるようになること																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	講義の説明とイントロダクション - なぜ物流が重要か																			
2	物流の基礎(1) 物流とは何か・物流の種類																			
3	物流の基礎(2) 物流の発展																			
4	物流の基礎(3) 物流の生産要素・機能と構成																			
5	物流の基礎(4) 物流の生産要素・機能と構成																			
6	物流の基礎(5) ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント																			
7	物流の基礎(6) 物流と保険・通関について																			
8	(予定) 国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内でレポートを課します)																			
9	国内物流の現状(1) 陸上輸送																			
10	国内物流の現状(1) 陸上輸送																			
11	国内物流の現状(2) 海上輸送																			
12	国内物流の現状(2) 海上輸送																			
13	国際物流へのつながり																			
14	進度調整																			
15	講義のまとめ(進度によって割愛)																			
ラ ア イ ク ニ テ ィ ン グ エ ブ	A:知識の定着・確認	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、次回以降の講義でリプライします。ミニッツペーパーは出席回数の把握(出席チェック)にも使用します。										工 夫 そ の 他 の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけられており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数が多い人にはレポート点からのペナルティを課します。							
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る物流関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係づけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます(15h以上)。																		
	事後 学修	講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとなお良いです(あわせて30h以上)。																		
教科書	使用しません(適切な書物がないため、講師が資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。																			
参考書	森隆行(2018)『現代物流の基礎(第3版)』同文館(どうぶんかん)出版 柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店 (社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	学期末試験(記述式、資料参照可)	50%																		
	講演会時のレポート	50%																		
学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。 レポートは、4回以上欠席の場合はペナルティとして減点します(10%~50%)。7回以上欠席の場合は0点とします(成績評価の対象外)。																				
注意事項	(1)学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2)欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとしてレポート点を減点します(10%~50%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFとします)。																			
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者（過年度は物流事業者）を招聘しての講演会を行います。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与）を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M411		国際物流論(International Logistics System)				経営システム学科 経営システム学科											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経	後期	木1	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)											
授業の概要	本講義では、前期開講の物流概論で得た基礎知識を踏まえ、港湾・海運・航空といった国際物流の実際について理解するとともに、国際物流におけるトピックスについて、社会経済とのつながりを考えながら理解するためのきっかけ作りを狙いとします。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 国際物流の実際(港湾・海運・航空)に関する基礎知識を理解し、就業先選択等に役立てるようにすること																	
目標2 国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)が現状の社会経済事情に関連することを理解すること																	
目標3 国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)に対して自らの意見を言えるようになること																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 イントロダクション 港湾整備の問題(1) 物流の中の港湾の位置づけ、港湾の数と種類																	
2 港湾整備の問題(2) 港湾の構成要素																	
3 港湾整備の問題(3) 港湾整備の制度と財源																	
4 国際海上輸送の問題(1) 外航海運の現状																	
5 国際海上輸送の問題(2) 海運市場の特徴																	
6 国際海上輸送の問題(3) 外航海運企業について																	
7 進度調整																	
8 (予定)国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内にレポートを課します)																	
9 航空貨物の問題(1) 航空貨物の現状																	
10 航空貨物の問題(2) 航空貨物の歴史																	
11 航空貨物の問題(3) 航空貨物の仕組みと主体																	
12 国際物流の課題とトピックス(1) 港湾整備・国際海上輸送																	
13 国際物流の課題とトピックス(2) 航空貨物・規制緩和・トピックス																	
14 進度調整																	
15 まとめ(進度によって割愛)																	
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、次回以降の講義でリプライします。 このミニッツペーパーは、出席チェック(出席回数数の把握)にも使います。				工夫 その 他の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。 きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数数の多い人にはレポート点からのペナルティを課します。										
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 以上)。 事後 講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとよいです。(あわせて30h以上)																
教科書	使用しません(適切な書物がないため、資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。																
参考書	鈴木暁(2009)『国際物流の理論と実務(四訂版)』成山堂書店 汪(ワン)正仁(2006)『ビジュアルでわかる国際物流(改訂版)』成山堂書店 (社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	学期末試験(記述式、資料参照可)	50%															
	講演会開催時に課すレポート	50%															
学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。 レポートは、4回以上欠席の場合はペナルティとして減点します(10%~50%)。7回以上欠席の場合は0点とします(成績評価の対象外)。																	
注意事項	(1)学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2)欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとしてレポート点を減点します(10%~50%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFと)																
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者（過年度は物流事業者）を招聘しての講演会を行います。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与）を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
K232M302		会計学 (Accounting I)					主専門科目 学科基盤科目	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1,2,3,4	経	前期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691						
授業の概要	この授業では、ビジネスに携わる人であれば誰でも必要となる会計の基礎を学びます。「会計学入門」や「初級簿記」では主に、企業活動を記録・計算する仕組みを学習しました。この授業では記録・計算の側面だけでなく、その背後にある考え方や、作成された会計書類の使い方も学習していきます。また、有名企業に関する新聞記事などを取り上げることで、学んだ知識と現実の企業活動との結びつきをイメージできるようにします。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	財務会計の基本的な用語や考え方を文脈に応じて適切に利用できる。											
目標2	損益計算書と貸借対照表の主要な項目について、関連する会計処理(仕訳、転記、科目残高の計算)を行うことができる。											
目標3	損益計算書と貸借対照表を用いて、企業の収益性・安全性に関する基本的な分析を行うことができる。											
目標4	会計制度・会計処理の概要やその背後にある考え方を文章で論理的に説明できる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス: 授業のねらい・成績評価方法などの説明、会計学分野の全体像と学び方											
2	企業会計への法規制: 会社法・金融商品取引法・法人税法による会計											
3	利益計算の仕組み: 企業活動の描写、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表											
4	利益計算のルール: 会計基準の必要性、会計基準の設定、損益計算書原則と貸借対照表原則											
5	売上高と売上債権: 営業循環における収益の認識、利益計算への影響の比較、売上債権											
6	棚卸資産と売上原価: 棚卸資産の範囲、取得原価、原価配分、期末評価											
7	固定資産と減価償却(1): 固定資産の範囲と区分、取得原価、原価配分(減価償却)											
8	固定資産と減価償却(2): 固定資産の原価配分(減損、除却・売却による損益)、繰延資産											
9	金融活動の資産と損益: 現金預金の範囲と管理、有価証券の範囲と区分、有価証券の取得原価と期末評価											
10	営業上の負債と他人資本: 負債の範囲と区分、営業上の負債、引当金											
11	資本の充実と剰余金の分配: 資本の意味と区分、資本金と資本剰余金、留保利益とその分配											
12	財務諸表の作成と報告(1): 法定された会計報告書、損益計算書・貸借対照表の内容											
13	財務諸表の作成と報告(2): 株主資本等変動計算書の内容、会計方針の注記											
14	財務諸表による経営分析: 収益性の分析、安全性の分析											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業前の予習課題(不明な点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)					工夫	その他				
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	次回の授業で取り上げる内容について教科書を確認する(14h)。										
	事後学修	理解を問う確認テストに解答できるよう復習する(28h)。これまでの簿記・会計の学修との関係を考える(7h)。										
教科書	桜井久勝(2018)『会計学入門(第5版)』日経文庫。											
参考書	片山覚ほか(2020)『入門会計学(改訂版)』実教出版。 川島健司(2021)『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社。 桜井久勝(2019)『財務会計の重要論点』税務経理協会。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	予習・復習課題	25%										
	期末試験	75%										
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。											
備考	本科目は中級レベル(2年次向け)ですが、入学時点で日商簿記検定3級以上を取得済みの人には1年次での履修を認めます。それ以外の人は「会計学入門」と「初級簿記」を履修した上で、2年次以降にこの科目を履修してください。また、「中級簿記」「株式会社簿記」を併せて履修することが望ましいです。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K232M302	会計学 (Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2,3,4	経	前期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691												
授業の概要	この授業では、ビジネスに携わる人であれば誰でも必要となる会計の基礎を学びます。「会計学入門」や「初級簿記」では主に、企業活動を記録・計算する仕組みを学習しました。この授業では記録・計算の側面だけでなく、その背後にある考え方や、作成された会計書類の使い方も学習していきます。また、有名企業に関する新聞記事などを取り上げることで、学んだ知識と現実の企業活動との結びつきをイメージできるようにします。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	財務会計の基本的な用語や考え方を文脈に応じて適切に利用できる。																	
目標2	損益計算書と貸借対照表の主要な項目について、関連する会計処理(仕訳、転記、科目残高の計算)を行うことができる。																	
目標3	損益計算書と貸借対照表を用いて、企業の収益性・安全性に関する基本的な分析を行うことができる。																	
目標4	会計制度・会計処理の概要やその背後にある考え方を文章で論理的に説明できる。																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス: 授業のねらい・成績評価方法などの説明、会計学分野の全体像と学び方																		
2 企業会計への法規制: 会社法・金融商品取引法・法人税法による会計																		
3 利益計算の仕組み: 企業活動の描写、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表																		
4 利益計算のルール: 会計基準の必要性、会計基準の設定、損益計算書原則と貸借対照表原則																		
5 売上高と売上債権: 営業循環における収益の認識、利益計算への影響の比較、売上債権																		
6 棚卸資産と売上原価: 棚卸資産の範囲、取得原価、原価配分、期末評価																		
7 固定資産と減価償却(1): 固定資産の範囲と区分、取得原価、原価配分(減価償却)																		
8 固定資産と減価償却(2): 固定資産の原価配分(減損、除却・売却による損益)、繰延資産																		
9 金融活動の資産と損益: 現金預金の範囲と管理、有価証券の範囲と区分、有価証券の取得原価と期末評価																		
10 営業上の負債と他人資本: 負債の範囲と区分、営業上の負債、引当金																		
11 資本の充実と剰余金の分配: 資本の意味と区分、資本金と資本剰余金、留保利益とその分配																		
12 財務諸表の作成と報告(1): 法定された会計報告書、損益計算書・貸借対照表の内容																		
13 財務諸表の作成と報告(2): 株主資本等変動計算書の内容、会計方針の注記																		
14 財務諸表による経営分析: 収益性の分析、安全性の分析																		
15 まとめ																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業前の予習課題(不明点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)					工夫	その他										
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	次回の授業で取り上げる内容について教科書を確認する(14h)。																
	事後学修	理解を問う確認テストに解答できるよう復習する(28h)。これまでの簿記・会計の学修との関係を考える(7h)。																
教科書	桜井久勝(2018)『会計学入門(第5版)』日経文庫。																	
参考書	片山覚ほか(2020)『入門会計学(改訂版)』実教出版。 川島健司(2021)『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社。 桜井久勝(2019)『財務会計の重要論点』税務経理協会。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	予習・復習課題	25%																
	期末試験	75%																
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。																	
備考	本科目は中級レベル(2年次向け)ですが、入学時点で日商簿記検定3級以上を取得済みの人には1年次での履修を認めます。それ以外の人は「会計学入門」と「初級簿記」を履修した上で、2年次以降にこの科目を履修してください。また、「中級簿記」「株式会社簿記」を併せて履修することが望ましいです。																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M412	会計学 (Accounting II)					主専門科目 その他	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	後期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691						
授業の概要	近年の企業では、輸出入などの国際活動が日常化しており、子会社などを利用したグループ経営も一般的となりました。また、日商簿記検定2級においても、2017年度からは外貨建取引や連結会計などの応用領域が出題されるようになりました。そこでこの授業では、日商簿記検定2級(商業簿記)の内容のうち、前期の「中級簿記」、「株式会社簿記」や「会計学I」で取り上げられなかった応用領域を学習します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	2024年2月の日商簿記検定2級(商業簿記)で出題されるレベルの問題を解くことができる。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	「会計学I」の復習：収益・費用の認識基準											
2	「中級簿記」の復習：資産の会計											
3	「株式会社簿記」の復習：負債・資本の会計											
4	決算手続(1)：精算表の作成											
5	決算手続(2)：帳簿の締切り											
6	決算手続(3)：貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書の作成											
7	本支店会計(1)：本支店間取引・支店間取引											
8	本支店会計(2)：決算手続											
9	連結会計(1)：資本連結 (連結財務諸表の基礎知識、支配獲得日の連結)											
10	連結会計(2)：資本連結 (支配獲得後1期目の連結)											
11	連結会計(3)：資本連結 の続き(支配獲得後2・3期目の連結)											
12	連結会計(4)：成果連結(内部取引高と債権・債務の相殺消去、未実現損益の消去)											
13	連結会計(5)：連結株主資本等変動計算書の作成											
14	キャッシュ・フロー計算書											
15	まとめ											
ラ ア ク B: 意 見 の 表 現 ・ 交 換 ニ テ ン イ グ レ プ D: 知 識 の 活 用 ・ 創 造	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業前の予習課題(不明な点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで予習課題を解く(14h)。										
	事後学修	理解を問う確認テスト、期末試験に向けた学習を行う(35h)。										
教科書	TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。											
参考書	CPA会計学院(2022)『いちばんわかる日商簿記 2級商業簿記の教科書』アガルト・パブリッシング。 滝澤ななみ(2022)『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記(第1版)』TAC出版。 山地範明(2021)『エッセンシャル連結会計(第2版)』中央経済社。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	予習・課題提出	25%										
	期末試験	75%										
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。											
備考	前期の「中級簿記」、「株式会社簿記」や「会計学I」と内容が密接に関連しているため、併せて履修してください。日商簿記検定2級の合格を目指す人は、「原価計算論」も履修することが望ましい。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M412	会計学 (Accounting II)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	後期	金4	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691						
授業の概要	近年の企業では、輸出入などの国際活動が日常化しており、子会社などを利用したグループ経営も一般的となりました。また、日商簿記検定2級においても、2017年度からは外貨建取引や連結会計などの応用領域が出題されるようになりました。そこでこの授業では、日商簿記検定2級(商業簿記)の内容のうち、前期の「中級簿記」、「株式会社簿記」や「会計学I」で取り上げられなかった応用領域を学習します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	2024年2月の日商簿記検定2級(商業簿記)で出題されるレベルの問題を解くことができる。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	「会計学 I」の復習：収益・費用の認識基準											
2	「中級簿記」の復習：資産の会計											
3	「株式会社簿記」の復習：負債・資本の会計											
4	決算手続(1)：精算表の作成											
5	決算手続(2)：帳簿の締切り											
6	決算手続(3)：貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書の作成											
7	本支店会計(1)：本支店間取引・支店間取引											
8	本支店会計(2)：決算手続											
9	連結会計(1)：資本連結 (連結財務諸表の基礎知識、支配獲得日の連結)											
10	連結会計(2)：資本連結 (支配獲得後1期目の連結)											
11	連結会計(3)：資本連結 の続き(支配獲得後2・3期目の連結)											
12	連結会計(4)：成果連結(内部取引高と債権・債務の相殺消去、未実現損益の消去)											
13	連結会計(5)：連結株主資本等変動計算書の作成											
14	キャッシュ・フロー計算書											
15	まとめ											
ラ ア ク B: 意 見 の 表 現 ・ 交 換 ニ テ ン イ グ レ プ D: 知 識 の 活 用 ・ 創 造	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業前の予習課題(不明な点への質問を含む)、講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト、授業後の復習課題(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで予習課題を解く(14h)。										
	事後学修	理解を問う確認テスト、期末試験に向けた学習を行う(35h)。										
教科書	TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。											
参考書	CPA会計学院(2022)『いちばんわかる日商簿記 2級商業簿記の教科書』アガルート・パブリッシング。 滝澤ななみ(2022)『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記(第1版)』TAC出版。 山地範明(2021)『エッセンシャル連結会計(第2版)』中央経済社。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	予習・課題提出	25%										
	期末試験	75%										
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。また、MoodleのIDとパスワードを確認しておいてください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるように復習を怠らないようにしてください。											
備考	前期の「中級簿記」、「株式会社簿記」や「会計学I」と内容が密接に関連しているため、併せて履修してください。日商簿記検定2級の合格を目指す人は、「原価計算論」も履修することが望ましい。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K243M414	会社会計論 (Business Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	オンライン(同時双方向型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経	前期	木2	氏名 中村 美保 E-mail nakamura@oita-u.ac.jp 内線 7669						
授業の概要	株式会社を取り巻く財務報告・会計制度の仕組みおよび役割について解説する。特に会計制度と企業経営の関係について講義する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	会計制度の基本ルールを理解すること。											
目標2	企業への会計制度の影響を理解すること。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	経済社会と現代会計(ガイダンス)											
2	財務会計の役割											
3	会計制度の基本ルール											
4	ディスクロージャー制度と企業(法的開示関連)											
5	ディスクロージャー制度と企業(自発的開示の機能)											
6	損益計算書の仕組み											
7	損益計算書の読み方											
8	会計利益の測定と企業業績											
9	会計利益の質と業績開示											
10	キャッシュフロー計算書を読む											
11	キャッシュフロー計算書の見方											
12	貸借対照表の意味と仕組み											
13	貸借対照表の読み方											
14	資産の会計											
15	持分の会計											
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に関連トピックについてのディスカッションを行う。受講生はそのための準備が必要。					工夫	その他の				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	予習として、参考書等の該当箇所を事前に読み、分からないところは調べる(30時間)。授業中に提示した課題について取り組むこと(20時間)。										
	事後	参考書等の該当箇所の復習(15時間)および関連事項の情報収集と分析(30時間)。										
教科書	適宜指定する。											
参考書	伊藤邦雄著『新・現代会計入門(最新版)』日本経済新聞社 他、適宜指定する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期テスト	60%										
	レポート	40%										
注意事項	簿記は得意である必要はありませんが、日商3級簿記程度の仕訳を理解する能力があることを前提に授業を進めていきます。											
備考	状況によりオンライン(双方向)の実施になる可能性があります。											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K243M415	会社会計論 (Business Accounting II)					主専門科目 その他	オンライン(同時双方向型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名 中村 美保 E-mail nakamura@oita-u.ac.jp 内線 7669						
授業の概要	株式会社を取り巻く会計制度の仕組みおよび役割について解説する。また近年のわが国における会計制度の変化と株式会社に対する影響について講義する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	会計制度が企業に及ぼす影響を理解する。											
目標2	財務諸表分析ができるようになる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	有価証券の会計											
2	有価証券の時価評価と経済的影響											
3	企業年金の会計											
4	企業年金の会計と年金給付の変化											
5	ストックオプションの会計											
6	ストックオプションとその是非											
7	連結グループの会計											
8	連結グループの会計とその仕組み											
9	連結情報の開示											
10	連結情報の開示と分析											
11	企業結合の会計											
12	のれんの会計の検討											
13	企業評価にむけて(財務諸表分析)											
14	企業評価にむけて(つづき)											
15	全体のまとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に関連トピックについてのディスカッションを行う。				工夫	その他の					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	シラバスの該当箇所について参考書等を事前に読んでくること(30時間)。										
	学修	授業中に提示した課題に取り組むこと(20時間)										
	事後	授業関連の該当箇所について、参考書等を復習すること(20時間)。また関連事項について情報収集および分析をすること(30時間)。										
教科書	適宜指定します。											
参考書	伊藤邦雄著『新・現代会計入門(最新版)』(日本経済新聞社)およびその他適宜指定します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期テスト	60%										
	レポート	40%										
注意事項	会計学の基礎的知識および会社会計論 程度の内容を習得済みと見なして、授業を進めていきます。											
備考	状況によりオンライン(同時双方向)による実施の可能性があります。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M416	監査論 (Auditing)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経	前期	金4	氏名 越智 学 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp 内線 7700									
授業の概要	本講義では、財務諸表監査について学習する。財務諸表監査の目的は、経営者の作成した財務諸表が企業の財政状態等を適正に表示しているか否かを監査人が判断し、その結果を意見として表明することにある。したがって、投資家をはじめとする財務諸表利用者が適切な意思決定を行うためには、利用者自身が財務諸表監査の役割や限界を認識し、監査報告書を通して伝達される監査人の意見を正しく理解しなければならない。監査人のような職業的専門家でなくとも、財務諸表を利用する可能性がある限り、財務諸表監査に関する基礎知識は不可欠である。監査論 では、具体的な監査の実施プロセスや監査報告書の内容には踏み込まず、基本的な財務分析と会計不正問題を中心に学習することで、財務諸表監査の必要性を理解する。そもそも、財務諸表監査はなぜ必要なのか。財務諸表利用者の立場から考えてもらいたい。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	実際の財務諸表を読み、基本的な分析ができる														
目標2	代表的な会計不正の手法を理解し、財務諸表に与える影響を具体的な項目や数字で説明できる														
目標3	財務諸表監査の必要性を理解し、簡潔に説明できる														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクション：講義の概要と目的														
2	決算書（財務諸表）の役割と入手方法														
3	有価証券報告書の読み方														
4	貸借対照表の読み方														
5	損益計算書の読み方														
6	キャッシュ・フロー計算書の読み方（1）														
7	キャッシュ・フロー計算書の読み方（2）														
8	財務諸表分析(1)：収益性分析														
9	財務諸表分析(2)：効率性分析														
10	財務諸表分析(3)：安全性分析														
11	クロス・セクション分析(1)：同業他社比較														
12	クロス・セクション分析(2)：同業他社比較														
13	時系列分析：前年比較・トレンド分析														
14	財務諸表分析と不正会計														
15	会計不正と公認会計士監査														
ラーニング	A:知識の定着・確認	財務諸表など、講義中に実際の企業データを用いて分析等を行う。履修者数次第ではグループワークも実施する。										工夫	その他の		
ラーニング	B:意見の表現・交換														
ラーニング	C:応用志向														
ラーニング	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次回の講義で取り上げる教科書・資料の範囲に目を通す（7h）。講義内で使用する有価証券報告書などの資料を収集する（3h）。													
時間外学習の内容と時間の目安	事後	学習内容について、理解不足がないか再確認する（7h）。課題レポートを作成する（14h）。													
教科書	関連書籍の改訂状況に応じて使用テキストを決定するため、第1回のイントロダクションで指定する。 現時点では、木村直人（2022）『これならわかる決算書キホン50！ 2023年版』中央経済社、を予定している。														
参考書	佐伯良隆（2022）『100分でわかる！決算書「分析」超入門 2023』朝日新聞出版。 林總（2023）『経営分析の基本：この1冊ですべてわかる 新版』日本実業出版社。 矢島雅己（2022）『決算書はここだけ読もう 2023年版』弘文堂。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
成績評価の方法及び評価割合	提出課題	40%													
成績評価の方法及び評価割合	期末試験	60%													
成績評価の方法及び評価割合	履修者数次第では期末試験がレポートになることがある。														
注意事項	監査論を学習するための入門講義であるが、位置づけが3,4年次の履修を想定した会計講座の専門発展科目であることに変わりはない。簿記および財務会計の基本的な知識を前提とするため、最低限、会計学入門、初級簿記および会計学 を履修済みであることが望ましい。														
備考	履修者数に応じて授業スタイル（講義形式、演習形式など）を変更する。履修登録の状況で判断し、詳細な講義計画をイントロダクションで説明するので第1回から必ず出席すること（演習形式とする場合、欠席者は受講資格を失う可能性がある）。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K243M417	監査論 (Auditing II)					主専門科目 その他	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3, 4	経	後期	金4	氏名 越智 学 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp 内線 7700						
授業の概要	本講義では、財務諸表監査について学習する。財務諸表監査の目的は、経営者の作成した財務諸表が企業の財政状態等を適正に表示しているか否かを監査人が判断し、その結果を意見として表明することにある。したがって、投資家をはじめとする財務諸表利用者が適切な意思決定を行うためには、利用者自身が財務諸表監査の役割や限界を認識し、監査報告書を通して伝達される監査人の意見を正しく理解しなければならない。監査人のような職業的専門家でなくとも、財務諸表を利用する可能性がある限り、財務諸表監査に関する基礎知識は不可欠である。監査論では、監査論で学習した財務諸表監査の必要性に続き、具体的な監査の実施プロセスや監査報告書の内容について学習していく。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1 財務諸表監査の役割や限界を説明できる	1	2	3	4	5	6	7					
目標2 監査報告書を読み、監査人のメッセージを識別できる												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	イントロダクション：講義の概要と目的、財務諸表監査の必要性											
2	会計監査とその基本的役割											
3	会計監査の現代的機能											
4	金融商品取引法に基づく監査制度											
5	会社法に基づく会計監査制度											
6	職業監査と監査基準ならびに職業倫理											
7	会計監査の進め方(1)：リスク・アプローチ											
8	会計監査の進め方(2)：監査計画											
9	会計監査の進め方(3)：リスク評価と監査手続											
10	会計監査の進め方(4)：監査の完了まで											
11	会計監査と不正への対応											
12	監査意見と監査報告書											
13	監査意見の種類と諸問題											
14	内部統制監査											
15	監査の品質管理											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義形式の場合はミニテスト、演習形式の場合は報告またはプレゼンテーションを課す。また、講義中にランダムで履修者に質問を振ることがある。					工夫 その他					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	次回の講義で取り上げる教科書・資料の範囲に目を通す(7h)。										
	事後 学修	学習内容について、理解不足がないか再確認する(7h)。課題レポートを作成する(14h)。										
教科書	関連書籍の改訂状況に応じて使用テキストを決定するため、第1回のイントロダクションで指定する。 現時点では、山浦久司(2022)『監査論テキスト(第8版)』中央経済社、を予定している。											
参考書	伊豫田隆俊他(2022)『ベーシック監査論(九訂版)』同文館出版。 蟹江章他(2022)『スタンダードテキスト監査論(第6版)』中央経済社。 長吉真一他(2022)『監査論入門(第5版)』中央経済社。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	提出課題	40%										
	期末試験	60%										
注意事項	3, 4年次の履修を想定した会計講座の専門発展科目である。講義は簿記および財務会計の基本的な知識を前提として進むので、基礎・中級レベルの会計関連科目を履修していない場合、講義内容が理解できないなどの不利益が生じる。また、監査論が未履修の場合、相当の自習を要する。											
備考	受講人数に応じて講義スタイル(講義形式、演習形式など)を変更する。履修登録の状況で判断し、詳細な講義計画をイントロダクションで説明するので第1回から必ず出席すること(演習形式とする場合、欠席者は受講資格を失う可能性がある)。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K243M418		管理会計論 (Management Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	3,4	経	前期	水2	氏名 大崎 美泉 E-mail yosaki@oita-u.ac.jp 内線													
授業の概要	<p>管理会計は、マネジメントに必要な情報の提供を目的とする会計で、経営者や経営管理者による経営戦略の策定、利益計画の設定や予算管理を実施、課業管理の展開に役立つ情報を作成、伝達するものです。</p> <p>本講義は、管理会計の特質、機能、体系に関する総論からスタートし、経営戦略のための会計という観点から、経営戦略の意義と重要性、経営戦略の策定プロセスや方法、経営戦略の決定に有用な管理会計情報の作成と伝達に関わる理論やツールについて学んでいきます。</p>																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 管理会計の概略を学ぶ事で、管理会計の全体像を把握できる。																			
目標2 企業の経営戦略の策定における管理会計の役割を説明できる。																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 イントロダクション：授業の進め方と評価方法の把握																			
2 企業管理と会計：経済社会における企業会計の役割の理解																			
3 財務会計と管理会計：企業会計の2大領域の理解																			
4 管理会計の構造と機能：管理会計の基本の理解																			
5 管理会計の適合性喪失と再生：管理会計の盛衰の把握																			
6 管理会計の発展系譜：管理会計の歴史の理解																			
7 管理会計の体系：管理会計の体系と全体像の把握																			
8 経営戦略の意義と管理会計：現代の企業経営の必須事項の理解																			
9 戦略的経営計画と長期利益計画：経営戦略と管理会計の関係性の理解																			
10 PPMと管理会計：経営戦略に関わる管理会計技法の理解																			
11 原価企画：製造業における環境変化の理解																			
12 原価企画：日本発の管理会計技法の修得																			
13 戦略的コストマネジメント：原価計算の発展形の理解																			
14 価格戦略：戦略的価格決定理論の理解																			
15 投資戦略と管理会計：長期的視野に立った管理会計の理解																			
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	・学習した内容と実際の企業の行動との関連性を問うレポートを作成する。					工 夫 そ の 他 の	・企業の新しい動きに関する情報をアップデートで紹介する。											
時間外学修の内容と時間の目安	準備	事前に教科書や参考書、課題プリント等を読んでおく。(15h)																	
	学修	企業の活動に関する実際のニュースを読んでおく。(15h)																	
	事後	講義の内容と現実の企業の活動との関連性を考える。(15h)																	
	学修																		
教科書	上総康行『管理会計論(第2版)』(新世社、2017)																		
参考書	西村明、大下丈平『ベーシック管理会計(新版)』(中央経済社、2014) その他、適当な文献を講義中に紹介します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	期末試験の成績	50%																	
	授業への参加度	30%																	
	レポート	20%																	
注意事項	管理会計論IIと合わせて受講すると管理会計の全体像がより良く理解できます。																		
備考																			
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	地方銀行社外取締役

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
K243M419		管理会計論 (Management Accounting II)					経営システム学科 経営システム学科	対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経	後期	水2	氏名 大崎 美泉 E-mail yosaki@oita-u.ac.jp 内線 7699														
授業の概要	<p>管理会計は、マネジメントに必要な情報の提供を目的とする会計で、経営者や経営管理者による経営戦略の策定、利益計画の設定や予算管理の実施、課業管理をの展開に役立つ情報を作成、伝達するものです。</p> <p>本講義は、「管理会計論Ⅰ」に引き続いて、総合管理のための会計(マネジメント・プランニング・アンド・コントロール)という観点から、短期利益計画、予算管理、業績評価システム、事業部制会計について学習していきます。また、オペレーショナル・コントロール(課業管理)のための会計という観点から、生産管理の会計についても学んでいきます。</p>																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	「管理会計論」において修得した戦略的管理会計に関する知識を確かなものにする。																			
目標2	経営管理の要諦であるマネジメント・プランニング・アンド・コントロールを理解する。																			
目標3	オペレーショナル・コントロールの概要を理解する。																			
目標4	管理会計の新しい展開方向について理解する。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	総合管理のプロセス：マネジメント アンド コントロールの意味を理解する																			
2	短期利益計画：短期利益計画と戦略的計画との違いを理解する																			
3	CVP分析：変動費、固定費、売上高との関係を理解する																			
4	限界利益分析：限界利益による経営意思決定について考える																			
5	総合管理としての予算 予算を利用した利益計画について理解する																			
6	予算管理の基本機能：予算の持つ計画機能、調整機能、統制機能について考える																			
7	事業部制会計：経営組織形態としての事業部制について理解する																			
8	内部振替価格と共通費の配賦：事業部制会計における問題点について考える																			
9	経営組織の変革：事業部制の新しいあり方について考える																			
10	価格政策：価格決定の仕方について理解する																			
11	オペレーショナル・コントロール：JIT、MRP、ERPについて理解する																			
12	管理会計の展開：BSC(バランススコアカード)について理解する																			
13	病院マネジメント：医療政策の展開と病院経営の課題について理解する																			
14	病院の原価計算：診療科別原価計算や疾患別原価計算について理解する																			
15	まとめ：管理会計と管理会計を通じて、管理会計の全体像に関する知識を確認する																			
ラ ブ ニ テ ン シ ブ	A:知識の定着・確認	・学習内容と実際の企業活動との関連性を問うレポートを作成してもらう。																		
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備	事前に教科書や参考書、課題プリント等を読んでおく。(15h)																		
	学修	企業活動や医療政策に関するニュースを読んでおく。(15h)																		
	事後	講義の内容と企業や病院の実際の活動との関連性を考える。(15h)																		
	学修																			
教科書	上総康行『管理会計論(第2版)』(新世社、2017)																			
参考書	西村明、大下丈平『ベーシック管理会計(新版)』(中央経済社、2014) その他、適当な文献を講義中に紹介します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末試験の成績	50%																		
	授業への参加度	30%																		
	レポート	20%																		
注意事項	「管理会計論」と合わせて受講すると管理会計の全体像がより良く理解できます。																			
備考																				
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	地方銀行社外取締役

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M413	原価計算論I(Cost Accounting I)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3	経	前期	木3	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695						
授業の概要	本講義では、製造業で行われている複式簿記(工業簿記)と有機的に結びついて実施される製品原価計算の理論と計算方法を学習します。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本商工会議所簿記検定試験2級工業簿記レベルの理解を目標としています。											
目標2	なお、2級取得を目指す学生は、中級簿記・株式会社簿記(旧簿記)、会計学の科目も併せて履修するようにしてください。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	個別原価計算の記帳体系											
2	材料費会計											
3	労務費会計											
4	経費会計、製造間接費会計											
5	単純個別原価計算、工企業の財務諸表											
6	部門別計算											
7	工場会計											
8	総合原価計算の記帳体系											
9	単純総合原価計算											
10	工程別総合原価計算											
11	組別・等級別総合原価計算、標準原価計算(1)											
12	標準原価計算(2)											
13	標準原価計算(3)											
14	損益分岐分析											
15	固定分解											
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義した内容を練習問題で理解度を確認していきます。				工夫 その他	学習内容によって、実務的な利用の仕方をご紹介します。					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	事前に配布したレジユメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べるようにしましょう(15h)。										
	事後 学修	本講義では、復習が大切になります。会計科目は、その時にできても計算練習をし続けなければすぐに忘れてしまうからです。同じ問題を何回も解きましょう(30h)。										
教科書	プリントを配布します。なお、下記の参考書にある問題集(5月中旬発売予定)は、授業で使用しますので、準備してください。											
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集 商業簿記・工業簿記2級 令和5年度版』 実教出版(予定)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト(課題提出を含む)	30%										
	定期試験	70%										
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくといよ。											
備考	初級簿記または、日本商工会議所簿記検定3級取得レベルを前提とします。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K242M414		原価計算論II(Cost Accounting II)					経営システム学科 経営システム学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	2,3	経	後期	木3	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695													
授業の概要	原価計算を実施する目的には、財務諸表作成目的、価格計算目的、原価管理目的、予算管理目的、基本計画設定目的があげられます。原価計算論では、主として企業外部の利害関係者に必要な会計情報を提供するための財務諸表作成目的としての原価計算の理解を深めてきました。これに対し、本講義では、主として企業内部の経営管理に有用な原価計算技法について学習します。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 製造業で行われている製品原価計算の応用的な理論と計算技術の習得を目指します。																			
目標2 経営管理に有用な原価計算技術の習得を目指します。																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 原価計算論 の総復習																			
2 直接原価計算(1)																			
3 直接原価計算(2)																			
4 直接原価計算(3)																			
5 製造間接費差異分析																			
6 部門別原価計算の基礎(1)																			
7 部門別原価計算の基礎(2)																			
8 部門別原価計算の基礎(3)																			
9 仕損費と作業屑及び減損の処理(1)																			
10 仕損費と作業屑及び減損の処理(2)																			
11 副産物の処理																			
12 部門別原価計算の応用(1)																			
13 部門別原価計算の応用(2)																			
14 Activity-Based Costingと原価企画																			
15 まとめ																			
ラック	A:知識の定着・確認	講義内容の確認のために、練習問題を行います。					工夫 その 他の	練習問題を解かせるだけでなく、その計算結果がどのような意味を持つのかも講義していきます。											
ネット	B:意見の表現・交換	講義の中で、受講生同士で話し合う時間を設ける場合(理論的な箇所です)があります。																	
イン	C:応用志向	実務的な利用方法も状況に応じて紹介します。																	
グループ	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前に配布したレジュメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べるようにしましょう(15h)。																	
	事後	事後の学習が特に重要となります。それは、講義の中で覚えたつもりになっている知識が、時間とともにすぐ忘れてしまうからです。したがって、同じ問題を学修 何度も復習するようにしましょう(30h)。																	
教科書	毎回プリントを配布します。																		
参考書	適宜指定します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	小テスト	15%																	
	レポート	15%																	
	定期試験	70%																	
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくとい。																		
備考	原価計算論 と併せて履修することが望ましい。																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K241M403		初級簿記(Elementary Bookkeeping)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2	氏名 越智 学(単独履修)・山根 陽一(並行履修) E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp(越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp(山根) 内線 7700(越)										
授業の概要	<p>会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。会計の書類を作成するための技術が簿記であり、日商簿記検定3級レベル(小規模企業を対象とした簿記)の内容は、ビジネスパーソンに必須の基礎知識であると言われています。また、会計学分野の中級・応用科目を学ぶ際には、簿記の基礎知識をすでに習得していることが前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定3級レベルの基礎的な計算技術を学習します。本講義の具体的な達成水準は、2月に実施される日商簿記検定3級の合格です(検定試験自体は、6月・11月にも実施されます)。本講義は、同検定試験の受験を強制するものではありませんが、学習の達成目標として意識し、達成度を測る道具として積極的に利用してもらいたいと考えています。</p>															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 簿記の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。																
目標2 小規模企業の簿記一巡の手続き(日商簿記検定3級レベル)を行うことができる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス+「会計学入門」の補足:現金過不足,当座借越																
2 「会計学入門」の補足:総勘定元帳の締切り																
3 期中の手続き(1):約束手形,手形貸付金・手形借入金,電子記録債権・債務の記帳																
4 期中の手続き(2):未収入金・未払金,立替金・預り金,仮払金・仮受金の記帳																
5 期中の手続き(3):消費税の期中取引,その他の取引,訂正仕訳																
6 決算の手続き(1):現金過不足の整理,当座借越・貯蔵品の振替え,精算表の作成(1)																
7 決算の手続き(2):商品の決算整理																
8 決算の手続き(3):貸倒引当金の計上																
9 決算の手続き(4):貸倒引当金の計上,有形固定資産の減価償却																
10 決算の手続き(5):有形固定資産の減価償却,消費税の整理																
11 決算の手続き(6):費用・収益の前払い・前受け,当座借越・貯蔵品の再振替																
12 決算の手続き(7):費用・収益の未払い・未収,法人税等の整理																
13 決算の手続き(8):決算整理後残高試算表																
14 決算の手続き(9):精算表の作成(2)																
15 決算の手続き(10):損益計算書と貸借対照表の作成																
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義中の穴埋め資料,授業中の練習問題(学生間の相談や教員への質問を含む),授業後の復習課題(授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む)				工夫	日商簿記検定3級の出題範囲に対応するため,クラス制を採用する。									
モチベーション	B:意見の表現・交換					その他の										
ディベロップメント	C:応用志向															
グ	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料や教科書等の情報に必要なに応じて予習する(7h)。														
	事後	復習課題を解く(15h)。期末試験に向けた学習を行う(18h)。														
教科書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。 TAC簿記検定講座(2023)『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.14.0』TAC出版。															
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『合格テキスト 日商簿記3級 Ver.14.0』TAC出版。 TAC簿記検定講座(2023)『合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2023年AW対策』TAC出版。 実教出版企画開発部(2023)『2023年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	提出課題	25%														
	期末試験	75%														
注意事項	毎回,電卓を持参すること。 初回の授業において,前期の「会計学入門」の理解度を確認するテストを行い,そこで一定以上の点数を取った人を対象にして授業を進めていきます。															
備考	教養教育科目「簿記の基礎」(後期・金曜2限)と「初級簿記」を併せて履修した場合,並行履修クラスに配属されます。「初級簿記」のみを履修した場合,単独履修クラスに配属されます。日商簿記検定3級の出題範囲を網羅したい人は,並行履修クラスで学習する必要があります。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K242M415		中級簿記(Intermediate Bookkeeping)				経営システム学科 経営システム学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経	前期	金3	氏名 森 美智代(非常勤講師)										
						E-mail 内線										
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容を学んでいきます。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 日商簿記2級商業簿記の個別論点の前半部分に関する記帳を行うことができる。																
目標2 債権・債務/有形固定資産/引当金に関して新しく追加された取引の仕訳処理を行うことができる。																
目標3 精算表の作成が理解できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス(講義の進め方・成績評価について説明)、日商簿記検定3級の総復習																
2 簿記一巡の手続き【取引 仕訳帳へ仕訳 元帳への転記 決算手続:試算表作成 決算整理 精算表作成 損益計算書・貸借対照表】																
3 財務諸表:形式(報告式/勘定式)・二つの流れの決算手続・企業の財務諸表の開示																
4 商品売買(1):分記法・総記法、商品勘定・売上原価勘定と売上高勘定・三分法による商品の期末評価																
5 商品売買(2):精算表における商品の期末処理																
6 現金および預金:現金処理の取引・決算時における現金処理・小口現金の処理・当座預金の処理・銀行勘定調整表																
7 債権・債務(1):手形の復習・クレジット売掛金・電子記録債権・債務																
8 債権・債務(2):その他の債権及び債務(復習)・その他の債権の譲渡・債務の保証																
9 有価証券(1):有価証券の分類・株式の処理・時価評価の評価(洗替法・切放法)																
10 有価証券(2):公社債の処理・端数利息の支払いと受け取り・償却原価法																
11 有形固定資産(1):有形固定資産の減価償却方法(定額法・定率法)																
12 有形固定資産(2):200%定率法・均等償却への切り替え・生産高比例法																
13 有形固定資産(3):固定資産の購入(割賦・約束手形による割賦購入)と売却・除去・破棄・火災・建設仮勘定・改良と修繕・圧縮帳																
14 引当金:貸倒引当金(復習)・その他の引当金(修繕引当金・退職給付引当金・商品保証引当金・賞与引当金・役員賞与引当金等)																
15 まとめ:これまでの講義のテーマについて練習問題をとおして理解を確認する。																
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の課題				工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料や教科書等の情報に必要な応じて予習する(7h)。														
	事後	宿題を解く(7h)。小テストや期末試験に向けた学習をする(14h)。														
教科書	TAC簿記検定講座(2023)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版(税別2,400円)。 TAC簿記検定講座(2023)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版(税別1,800円)。															
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『2023年度版 日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(2023年4月発売) TAC簿記検定講座(2023)『TAC直前予想 日商簿記2級』(2023年3月(8月、12月)発売)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	毎回の授業開始時に行う小テスト或いは出題課題	30%														
	期末試験	70%														
注意事項	電卓を必ず持参すること。毎回課題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。															
備考	日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。 なお、日商簿記2級商業簿記の出題範囲は、「中級簿記」(前期)、「株式会社簿記」(前期集中)、「会計学II」(後期・金曜4限)、合計3科目(6単位)の															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
K242M416	中級簿記補論(Practical Intermediate Bookkeeping)					主専門科目 その他	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2,火4	氏名 越智 学・山根 陽一 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp (山根) 内線 7700 (越智)												
授業の概要	本講義のねらいは、ティーチングによる学習を通じて、簿記能力の向上を図ることにある。簿記の背後には、「なぜそのような処理を行うのか」という理論が存在しているが、資格取得を目的とした簿記学習ではこうした理論を理解するよりも、機械的・形式的な暗記が優先されることが多い。しかし、暗記のみに頼った学習は応用力を欠き、本来の意味で簿記を習得したとはいえない。本講義では、日商簿記3級以上の合格者を対象とし、模擬講義によるティーチングを体験する。教えるという立場から簿記に取り組み、その仕組みや理論をあらためて考えてもらいたい。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	機械的・形式的な方法ではなく、簿記の理論に基づいた説明を行うことができる。																	
目標2	仕訳をはじめとする帳簿記入の方法を、初学者にもわかりやすく説明できる。																	
目標3	他者との協働(グループでの模擬講義の準備など)を通じて、プレゼンテーションの質を高めることができる。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	イントロダクション：講義の目的と進め方																	
2	模擬講義(第1回)：学習目標と授業プランの検討																	
3	模擬講義(第1回)：授業資料(案)の作成																	
4	模擬講義(第1回)：リハーサル																	
5	模擬講義(第1回)：実践(1)																	
6	模擬講義(第1回)：実践(2)																	
7	模擬講義(第2回)：学習目標と授業プランの検討																	
8	模擬講義(第2回)：授業資料(案)の作成																	
9	模擬講義(第2回)：リハーサル																	
10	模擬講義(第2回)：実践(1)																	
11	模擬講義(第2回)：実践(2)																	
12	模擬講義(第3回)：授業資料(案)の作成																	
13	模擬講義(第3回)：リハーサル																	
14	模擬講義(第3回)：実践(1)																	
15	模擬講義(第3回)：実践(2)																	
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	受講者同士の模擬講義,ピアレビュー					工 夫 そ の 他 の	リアクションペーパー										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	模擬講義の準備(30h)																
	事後学修	模擬講義の振り返り(5h)																
教科書	使用しない。参考資料等を適宜配付する。																	
参考書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。 TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 渡部裕恒ほか(2023)『検定簿記講義 3級商業簿記(2023年度版)』中央経済社。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業準備の取り組み	40%																
	模擬講義	50%																
	ピアレビュー	10%																
注意事項	1.9月下旬(後期履修ガイダンス予定日)に事前ガイダンスを実施する。履修を検討している学生は必ず出席すること。 2.以下の履修制限を設ける(詳細はガイダンスで説明する)。																	
備考	本講義は、模擬講義によるティーチングを通じ、指導する側の立場から基礎的な簿記能力の向上を目指す双方向型の科目である。「初級簿記」や「中級簿記」の単位認定を受けた1年生や、教員免許(商業)の取得を目指す学生に積極的に履修してもらいたい。																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K242M416	中級簿記補論(Practical Intermediate Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2,火4	氏名 越智 学・山根 陽一 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp (山根) 内線 7700 (越)									
授業の概要	本講義のねらいは、ティーチングによる学習を通じて、簿記能力の向上を図ることにある。簿記の背後には、「なぜそのような処理を行うのか」という理論が存在しているが、資格取得を目的とした簿記学習ではこうした理論を理解するよりも、機械的・形式的な暗記が優先されることが多い。しかし、暗記のみに頼った学習は応用力を欠き、本来の意味で簿記を習得したとはいえない。本講義では、日商簿記3級以上の合格者を対象とし、模擬講義によるティーチングを体験する。教えるという立場から簿記に取り組み、その仕組みや理論をあらためて考えてもらいたい。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	機械的・形式的な方法ではなく、簿記の理論に基づいた説明を行うことができる。														
目標2	仕訳をはじめとする帳簿記入の方法を、初学者にもわかりやすく説明できる。														
目標3	他者との協働(グループでの模擬講義の準備など)を通じて、プレゼンテーションの質を高めることができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	イントロダクション：講義の目的と進め方														
2	模擬講義(第1回)：学習目標と授業プランの検討														
3	模擬講義(第1回)：授業資料(案)の作成														
4	模擬講義(第1回)：リハーサル														
5	模擬講義(第1回)：実践(1)														
6	模擬講義(第1回)：実践(2)														
7	模擬講義(第2回)：学習目標と授業プランの検討														
8	模擬講義(第2回)：授業資料(案)の作成														
9	模擬講義(第2回)：リハーサル														
10	模擬講義(第2回)：実践(1)														
11	模擬講義(第2回)：実践(2)														
12	模擬講義(第3回)：授業資料(案)の作成														
13	模擬講義(第3回)：リハーサル														
14	模擬講義(第3回)：実践(1)														
15	模擬講義(第3回)：実践(2)														
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	受講者同士の模擬講義,ピアレビュー				工 夫 そ の 他 の	リアクションペーパー								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	模擬講義の準備(30h)													
	事後学修	模擬講義の振り返り(5h)													
教科書	使用しない。参考資料等を適宜配付する。														
参考書	資格の大原(2021)『大原で合格する日商簿記3級(第3版)』中央経済社。 TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版。 渡部裕恒ほか(2023)『検定簿記講義 3級商業簿記(2023年度版)』中央経済社。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	授業準備の取り組み	40%													
	模擬講義	50%													
	ピアレビュー	10%													
注意事項	1.9月下旬(後期履修ガイダンス予定日)に事前ガイダンスを実施する。履修を検討している学生は必ず出席すること。 2.以下の履修制限を設ける(詳細はガイダンスで説明する)。														
備考	本講義は、模擬講義によるティーチングを通じ、指導する側の立場から基礎的な簿記能力の向上を目指す双方向型の科目である。「初級簿記」や「中級簿記」の単位認定を受けた1年生や、教員免許(商業)の取得を目指す学生に積極的に履修してもらいたい。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K243M423	実践経営分析論 (Applied Management Analytics)					経営システム学科 経営システム学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経済	後期集中	水4	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (問い合わせはメールをお願いします)									
授業の概要	大分県の観光産業の発展に向け、首都圏等及び海外からの個人旅行者及び若年層旅行者の増加が課題になっている。本講義は、大分県・ジェットスタージャパン(JJP)・本学の3者連携協定にもとづき、専門科目(交通論、経済政策、産業組織論、マーケティング論など)を履修した学生が、当該課題の解決のための方策について研究・分析・発表を行うことで、地域課題の解決力育成をはかることを狙いとする。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	専門科目で修得した知識を、実際の地域課題の実践的な分析に発展できるようになる。														
目標2	実践的・社会実装的な視野を身に付け課題解決能力を育成し、キャリア形成に役立てる。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	オリエンテーション														
2	JJPによる講義(ジェットスタージャパンについて~各セクションの仕事や事業概要全般)														
3	JJPによる講義(就航地域との取組やマーケティング活動についてや若年層マーケティング策など)														
4	大分県による講義(大分県の交通戦略)														
5	大分県による講義(大分県の観光戦略)														
6	県内自治体・観光関係者による講義(県内自治体の観光政策、九州の観光政策)														
7	ワークショップ・フィールドワーク準備 これ以降、隔週等での開講になることがある														
8	ワークショップ・フィールドワーク準備														
9	フィールドワーク(観光地視察、ヒアリング、情報収集) 学外で実施														
10	フィールドワーク(観光地視察、ヒアリング、情報収集) 学外で実施														
11	ワークショップ(報告・提案に向けたテーマと方向性の決定)														
12	ワークショップ(報告・提案の準備)														
13	ワークショップ(報告・提案のとりまとめ)														
14	最終報告会の予行演習														
15	最終報告会(プレゼンテーション) 学外で実施。2月試験期の後を予定。														
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の講義、ワークショップ、フィールドワークにおいて、シャトルカードの提出を求め、それに必要に応じてコメントを返すことで振り返りを促す。	工 夫 そ の 他 の	定期的は大分県・JJPとの意見交換を行う機会を設け、進捗の確認と質の高いアウトプットの創出ができるようにしている。											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	関心のある観光情報や、観光・航空政策に関する授業の履修、これらの分野の新聞や雑誌記事などの閲覧が望ましい(30h~45h)。 フィールドワークの準備以降は、各グループでの活動準備などで講義時間外の自主的な学習が求められる(講義時間だけではすべてはできないので)(30h~45h)。													
教科書	特に指定しない。随時必要な資料を配布する。														
参考書	講義中、または初回ガイダンスにおいて配布するコースシラバスで案内する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の議論・意見交換等の内容	50%													
	最終成果報告会での報告内容	50%													
注意事項	集中講義だが履修の便宜上水曜4限で固定して開講する予定。講義内容や順番は今後変わることがありうる。フィールドワークの費用は自己負担が必要である(原則大分県内)。事前説明会を実施する可能性がある(7月末の予定)。定員を最大20人(程度)とし、超過の場合は選考を行うことがある。														
備考	専門科目(交通論、経済政策、マーケティング論、産業組織論など)を履修した学生が望ましいが、履修の有無は要件とはしない。他学部生の履修も認める。講義中、記録と広報のため、写真や動画などを撮影することがありうる。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）、国土交通省系の研究所での勤務経験がある。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大分県交通政策課、ジェットスタージャパン株式会社との共同授業のため、定期的または不定期で両者（あるいは関係機関等）から講義に参加する。
実務経験を いかした教 育内容	講師の実務経験（国交省系の政策形成への関与、旅行会社勤務経験）を反映した講義を行うとともに、全国初のLCCとの連携講義であり、実践面の理解も深まる内容になっている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K243M424		上級簿記(Advanced Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3, 4	経	前期集中	他	氏名 望月 信幸 E-mail mochizuki@pu-kumamoto.ac.jp 内線												
授業の概要	この授業では、これまでに学習した簿記の知識をさらに発展させ、高度な簿記の知識を習得することを目的としている。この授業を通じて、日商1級商業簿記の内容の一部を学習するとともに、実際に企業がそれらの会計情報をどのように活用しているのかについて理解することを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	講義で扱う会計処理の手続きができるようになる。																	
目標2	講義で扱う会計処理の意味を説明できるようになる。																	
目標3	企業における会計情報の有効な活用方法を理解する。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	オリエンテーション：簿記・会計に関する基礎知識の確認																	
2	税効果会計：税効果に関する処理について学習																	
3	外貨換算会計：外貨建て取引の会計処理について学習																	
4	デリバティブ取引：デリバティブ取引の会計処理について学習																	
5	固定資産：有形固定資産の取得、売却に関わる会計処理について学習																	
6	固定資産：減損会計、資産除去債務について学習																	
7	リース取引：リース取引に関する会計処理について学習																	
8	企業結合：企業結合に関する会計処理について学習																	
9	連結会計：支配獲得日の会計処理について学習																	
10	連結会計：支配獲得後2年目以降の会計処理について学習																	
11	連結会計：未実現利益の処理について学習																	
12	連結会計：包括利益について学習																	
13	連結会計：連結財務諸表について学習																	
14	連結会計：持分法について学習																	
15	授業のまとめ																	
ラ	A:知識の定着・確認					実践演習(問題解答)	工夫 その 他の	企業での活用例示があれば説明										
ア	B:意見の表現・交換																	
ク	C:応用志向																	
ニ	D:知識の活用・創造																	
テ																		
ン																		
イ																		
グ																		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	簿記や会計学に関する基本的な知識を整理し、理解しておくこと(15h)。																
	事後学修	問題を解くなどにより、学修した単元の会計処理方法とその意味を理解しておくこと(15h)。																
教科書	合格テキスト日商簿記1級商業簿記 および (TAC出版)																	
参考書	講義の中でそのつど紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎授業の提出課題	30%																
	期末試験(または期末課題)	70%																
注意事項	日商2級商業簿記の内容を理解しておくことが望ましい。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K242M417	株式会社簿記(Selected Topics in Intermediate Bookkeeping)					経営システム学科 経営システム学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 角田 幸太郎(非常勤講師) E-mail 内線						
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容を学んでいきます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日商簿記2級商業簿記の個別論点の後半部分に関する記帳を行うことができる。											
目標2	会計・税法等に関する専門知識とスキルを修得し、論理的に判断することができる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	リース取引											
3	無形固定資産等と研究開発費											
4	外貨換算会計(1)											
5	外貨換算会計(2)											
6	税金											
7	課税所得の算定と税効果会計(1)											
8	課税所得の算定と税効果会計(2)											
9	株式の発行											
10	剰余金の配当と処分(1)											
11	剰余金の配当と処分(2)											
12	収益・費用の認識基準											
13	合併と事業譲渡											
14	製造業会計											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の宿題				工夫 その他						
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(7h)。										
	事後 学修	宿題を解く(7h)。小テストや期末試験に向けた学習をする(14h)。										
教科書	TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版(税別2,400円)。 TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.16.0』TAC出版(税別1,800円)。											
参考書	TAC簿記検定講座(2023)『2023年度版 日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(2023年3月発売) TAC簿記検定講座(2023)『ネット試験と第164(165、166)回をあてるTAC予想模試+解き方テキスト 日商簿記2級』(2023年3月(8月、12月)発売)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の授業開始時に行う小テスト	30%										
	期末試験	70%										
注意事項	電卓を必ず持参すること。毎回宿題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。											
備考	この講義は「南九州税理士会寄附講義」として、その支援、協力により開講します。日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。なお、2016年度以前に「簿記III」の単位を修得した人や、2017年度に「上級簿記」											
リンク	URL											